

平成22年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて ～ 北海道（公立）における抽出調査結果～

本調査結果は、国が公表した調査結果のうち、「平成22年度 全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント」に示された全国の調査結果に基づき、現時点において、全国と本道の公立学校における調査結果の比較ができるように取りまとめた概要を掲載したものである。

調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査の内容

教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関する問題〔国語A、算数・数学A〕

・主として「活用」に関する問題〔国語B、算数・数学B〕

生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

4 調査の方式

平成19年度から21年度までの悉皆調査の結果、全国及び各地域等の信頼性の高いデータが蓄積され、教育に関する検証改善サイクルの構築も着実に進んでいることから、22年度調査においては、これまでの調査と一定の継続性を保ちながら、調査方式を悉皆調査から抽出調査及び希望利用方式に切り替えている。

5 調査期日

平成22年4月20日（火）

6 4月20日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

北海道（公立）

	対象学校数(校)	学校数(校)(抽出率)	児童生徒数(人)
小学校	1,213	239(19.7%)	9,122
中学校	664	232(34.9%)	15,765
合 計	1,877	471(25.1%)	24,887

〔参考〕全国（公立）

	対象学校数(校)	学校数(校)(抽出率)	児童生徒数(人)
小学校	21,300	5,372(25.2%)	264,193
中学校	10,094	4,347(43.1%)	421,281
合 計	31,394	9,719(31.0%)	685,474

小学校には特別支援学校小学部を、中学校には中等教育学校及び特別支援学校中学部を含む

調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。

本調査は抽出調査であり、各都道府県（公立）の教科に関する調査については誤差±1%程度の精度となるように標本抽出が行われているため、推計値である集計値については、全国（国・公・私立）の教科に関する調査及び児童に対する質問紙調査については誤差±2%程度、学校質問紙調査については誤差±1%程度並びに各都道府県（公立）の教科に関する調査については誤差±1%程度の精度となっていることに留意する必要がある。

本調査の結果においては、平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、これらの数値のみでは必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、平均正答率の95%信頼区間、中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価する必要がある。

結果の概要

教科に関する調査

小・中学校とも、依然として全国の平均正答率を下回っているものの、中学校においては、昨年度と同様に、小学校よりも全国との差が小さい傾向にある。小学校においては、算数Aで全国との差が6.2～4.5ポイントあり、ほかの教科よりも低い傾向にある。

22年度調査

		小 学 校				中 学 校			
		小学校国語A	小学校国語B	小学校算数A	小学校算数B	中学校国語A	中学校国語B	中学校数学A	中学校数学B
平均正答率の95%の信頼区間	道	79.1~80.6 (-4.1~-2.9)	72.5~74.6 (-5.2~-3.4)	67.8~69.9 (-6.2~-4.5)	44.1~46.1 (-5.0~-3.4)	74.1~75.3 (-0.9~0.1)	62.1~63.7 (-3.0~-1.8)	61.8~63.6 (-2.6~-1.2)	40.1~42.4 (-3.0~-1.1)
	国	83.2~83.5	77.7~78.0	74.0~74.4	49.1~49.5	75.0~75.2	65.1~65.5	64.4~64.8	43.1~43.5
平均正答数	道	12.0 問 / 15 問	7.4 問 / 10 問	13.1 問 / 19 問	5.4 問 / 12 問	26.2 問 / 35 問	6.3 問 / 10 問	22.6 問 / 36 問	5.8 問 / 14 問
	国	12.5 問 / 15 問	7.8 問 / 10 問	14.1 問 / 19 問	5.9 問 / 12 問	26.6 問 / 35 問	6.7 問 / 10 問	23.8 問 / 36 問	6.3 問 / 14 問

「平均正答率の95%信頼区間」：95%の確率で全員を対象とした調査（悉皆調査）の場合の平均正答率が含まれる範囲

【参考】21年度調査

		小 学 校				中 学 校			
		小学校国語A	小学校国語B	小学校算数A	小学校算数B	中学校国語A	中学校国語B	中学校数学A	中学校数学B
平均正答率	道	66.0 (-3.9)	45.9 (-4.6)	74.1 (-4.6)	51.5 (-3.3)	76.1 (-0.9)	72.6 (-1.9)	61.1 (-1.6)	55.4 (-1.5)
	国	69.9	50.5	78.7	54.8	77.0	74.5	62.7	56.9
平均正答数	道	11.9 問 / 18 問	4.6 問 / 10 問	13.3 問 / 18 問	7.2 問 / 14 問	25.1 問 / 33 問	8.0 問 / 11 問	20.1 問 / 33 問	8.3 問 / 15 問
	国	12.6 問 / 18 問	5.1 問 / 10 問	14.2 問 / 18 問	7.7 問 / 14 問	25.4 問 / 33 問	8.2 問 / 11 問	20.7 問 / 33 問	8.5 問 / 15 問

（ ）は国と北海道との差

児童生徒質問紙調査

国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度より小学校で若干高く、中学校で同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校ともに同様の傾向。

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童生徒の割合は、小・中学校とも昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で若干低く、中学校で同様の傾向。

算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、昨年度より小学校で若干低く、中学校で同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いている児童生徒の割合は、小・中学校とも昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも同様の傾向。

1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小・中学校とも昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い。

家で学校の宿題をしている児童生徒の割合は、小・中学校とも昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校で低く、中学校で同様の傾向。

学校質問紙調査

国語、算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた学校の割合は、小・中学校とも昨年度と同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校国語で同様、小学校算数、中学校数学で若干低く、中学校国語で低い。

国語、算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行っている学校の割合は、昨年度より小学校算数で若干高く、小学校国語、中学校国語、中学校算数で同様の傾向。全国（公立）と比べて、小学校国語、小学校算数で同様、中学校数学で若干低く、中学校国語で低い。

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、昨年度より小学校で若干高く、中学校で高い。全国（公立）と比べて、小学校で若干低く、中学校で低い。

放課後を利用した補充的な学習サポートを実施した学校の割合は、昨年度より小学校で高く、中学校で若干高い傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様、中学校で低い。

長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施している学校の割合は、昨年度より小学校で若干低く、中学校で高い。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い。

全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校の割合は、小学校で昨年度と同様、中学校で高い傾向。全国（公立）と比べて、小学校で同様、中学校で高い。

全国学力・学習状況調査の調査問題を授業の中で活用した学校の割合は、小学校で昨年度と同様、中学校で若干高い傾向。全国（公立）と比べて、小・中学校とも低い。

教科に関する調査

小学校国語 A

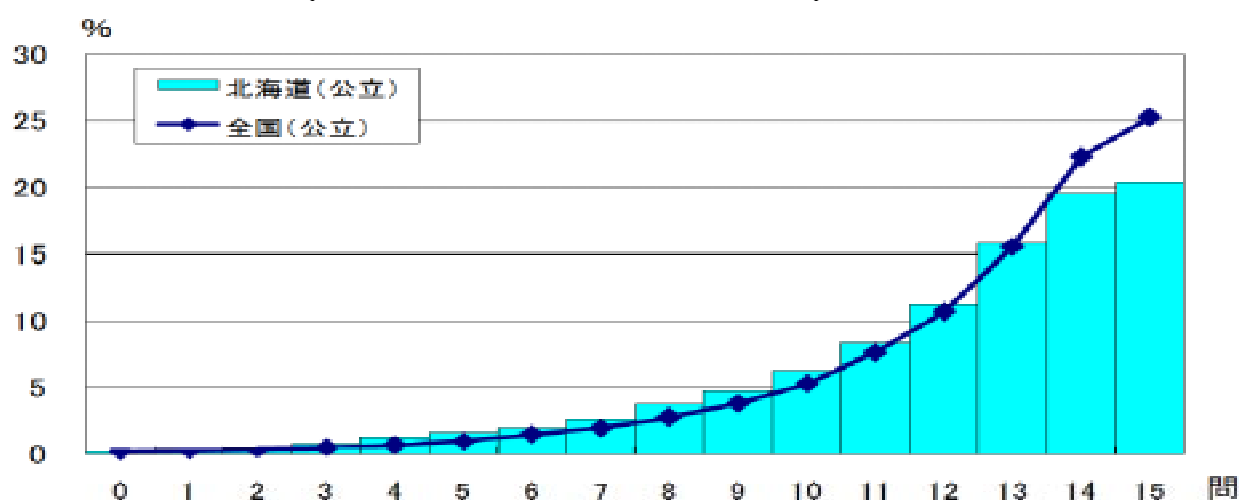
平均正答率が79.1%-80.6%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (79.1% - 80.6%) H 2 1 (66.0%)
全 国 : H 2 2 (83.2% - 83.5%) H 2 1 (69.9%)

【平成 2 2 年度】国語 A

	児童数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	9,122 人	12.0 問/15 問	79.1 % - 80.6 %	13.0 問	3.0
全 国(公立)	264,182 人	12.5 問/15 問	83.2 % - 83.5 %	13.0 問	2.8

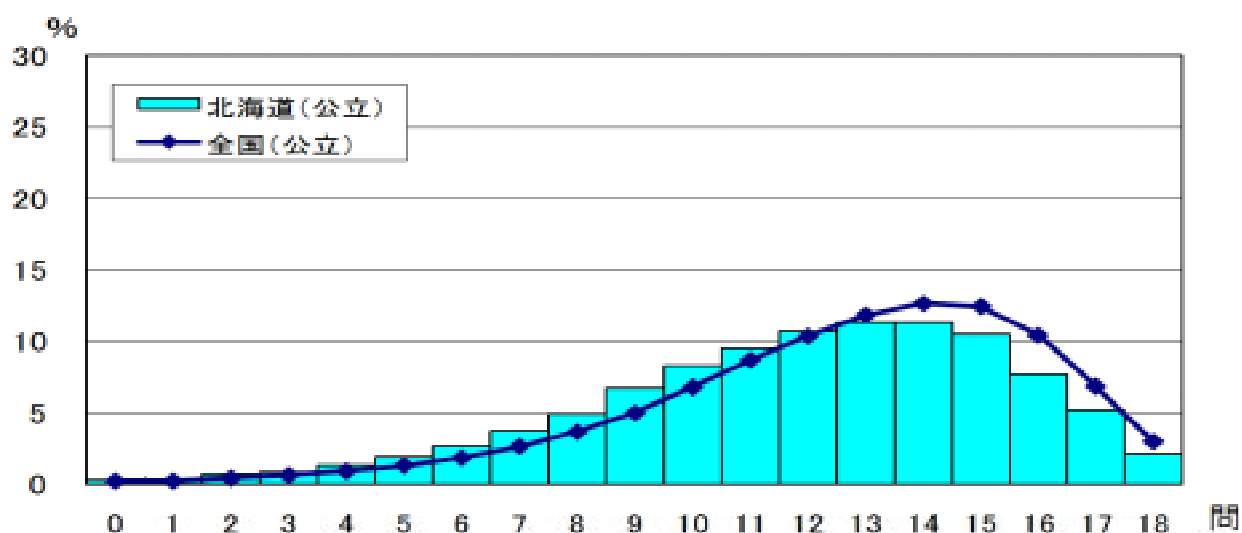
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



【平成 2 1 年度】国語 A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,921 人	11.9 問/18 問	66.0 %	12.0 問	3.6
全 国(公立)	1,137,808 人	12.6 問/18 問	69.9 %	13.0 問	3.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



小学校国語 B

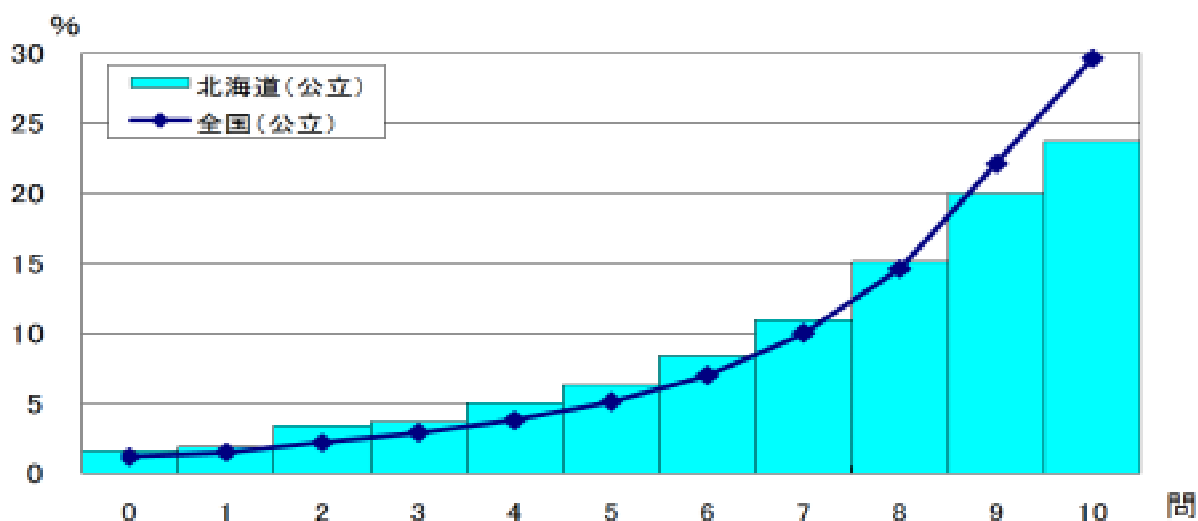
平均正答率が72.5%-74.6%であり、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力を更に身に付けさせる必要がある。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (72.5% - 74.6%) H 2 1 (45.9%)
全 国 : H 2 2 (77.7% - 78.0%) H 2 1 (50.5%)

【平成 2 2 年度】国語 B

	児童数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	9,121 人	7.4 問/10 問	72.5 % - 74.6 %	8.0 問	2.6
全 国(公立)	264,170 人	7.8 問/10 問	77.7 % - 78.0 %	9.0 問	2.4

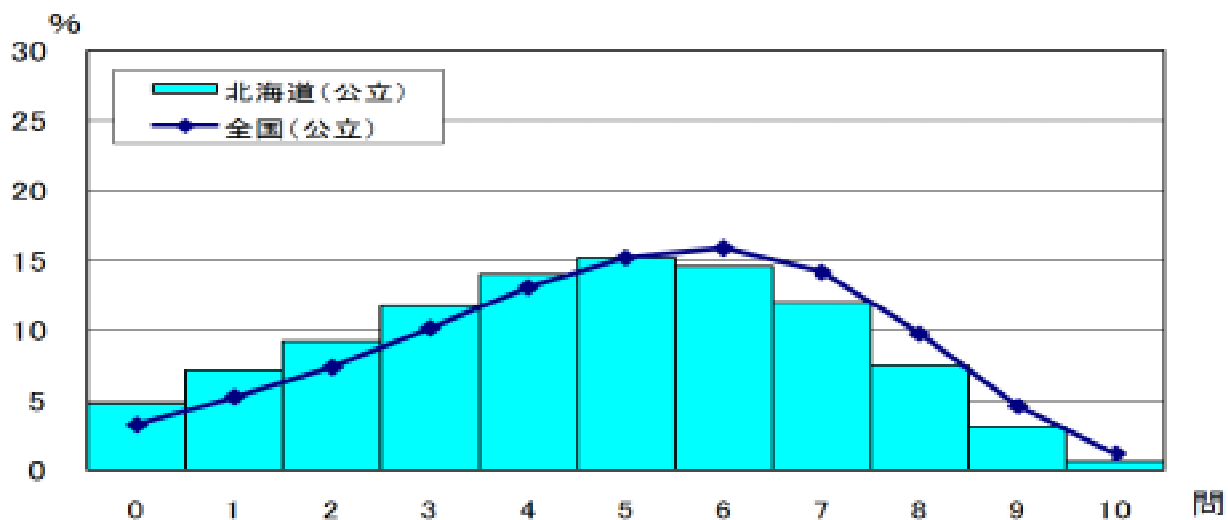
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



【平成 2 1 年度】国語 B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,903 人	4.6 問/10 問	45.9 %	5.0 問	2.4
全 国(公立)	1,137,598 人	5.1 問/10 問	50.5 %	5.0 問	2.3

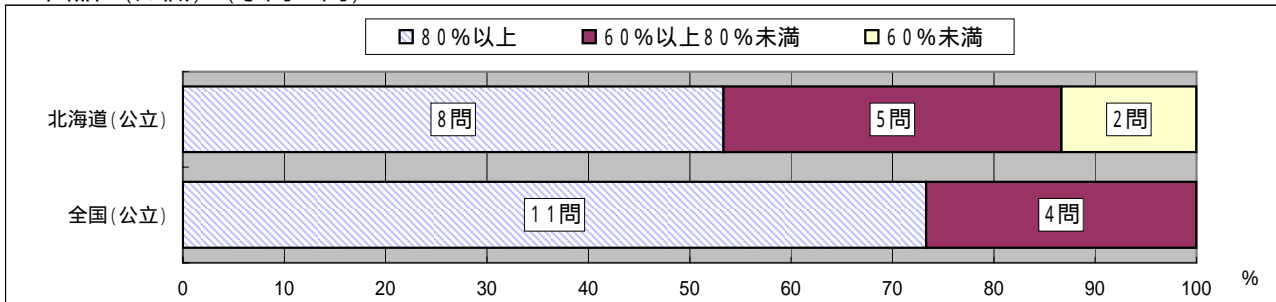
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



設問別の正答率に見る調査結果

国語A(知識)について、正答率80%以上は、15問中8問であり、正答率60%未満は、2問であった。
国語B(活用)について、正答率80%以上は、10問中2問であり、正答率60%未満は、1問であった。

1 国語A(知識) (小問15問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (0問/15問)

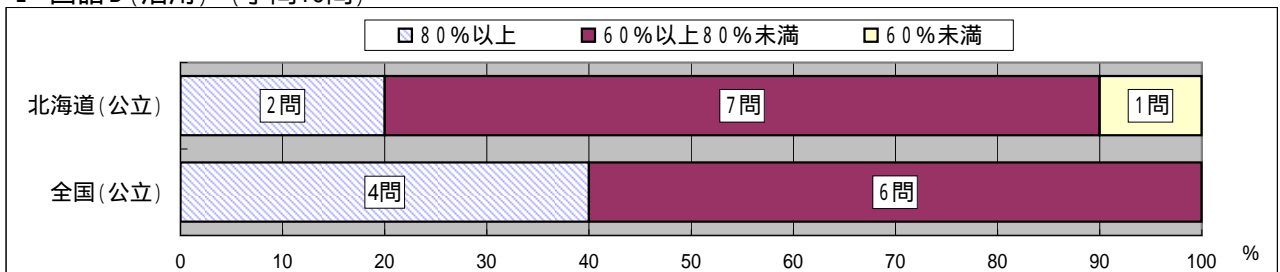
< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (14問/15問)

14問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
1二(2)	言語事項	学年別漢字配当表の当該学年の前の学年までに配当されている漢字を正しく書く	68.1%	74.7%	-6.6
8	言語事項	共通語と方言との違いを押さえ、それぞれの使われ方を理解する	74.9%	81.0%	-6.1

平均正答率が全国と同じ設問は1問

2 国語B(活用) (小問10問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (0問/10問)

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (10問/10問)

10問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
2二	読むこと	物語を読んで思ったことや考えたことを、理由を明確にしてまとめて書く	75.2%	82.3%	-7.1
4	読むこと	目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明する	58.8%	65.5%	-6.7

小学校算数 A

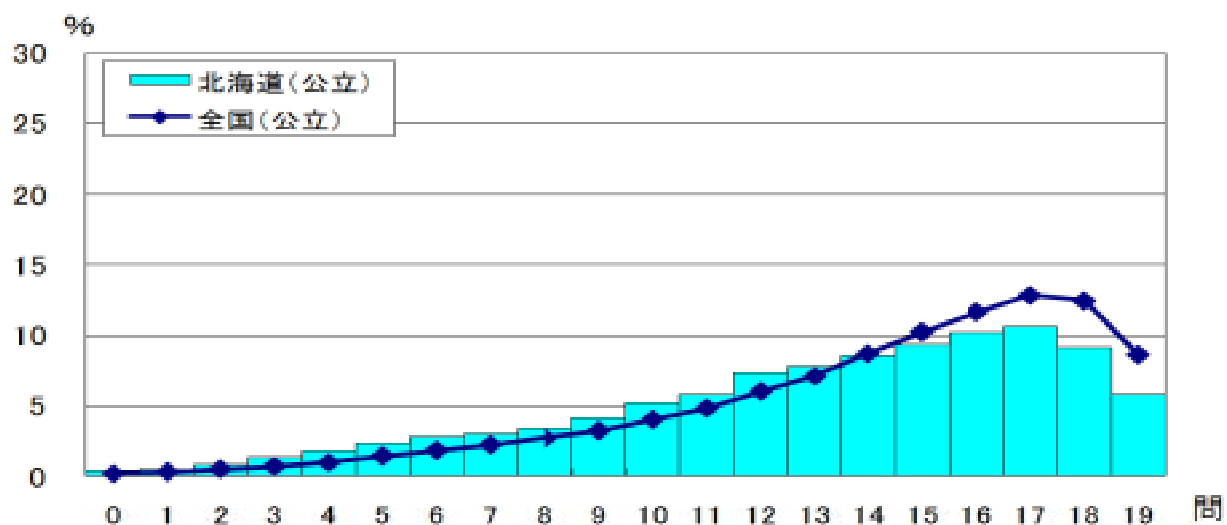
平均正答率が67.8%-69.9%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (67.8% - 69.9%) H 2 1 (74.1%)
全 国 : H 2 2 (74.0% - 74.4%) H 2 1 (78.7%)

【平成 2 2 年度】算数 A

	児童数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	9,122 人	13.1 問/19 問	67.8 % - 69.9 %	14.0 問	4.3
全 国(公立)	264,193 人	14.1 問/19 問	74.0 % - 74.4 %	15.0 問	4.0

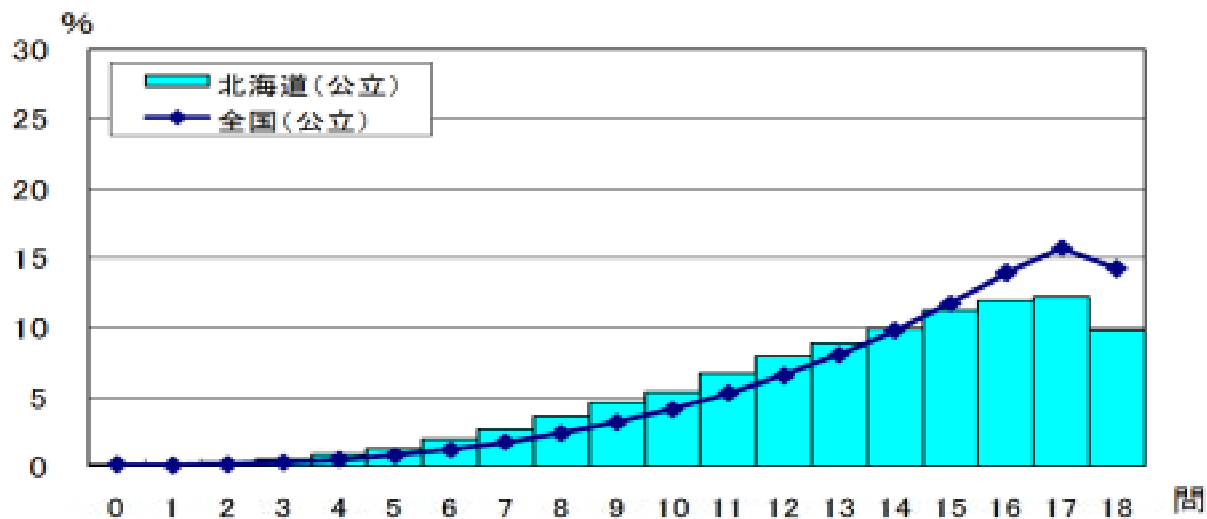
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



【平成 2 1 年度】算数 A

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,920 人	13.3 問/18 問	74.1 %	14.0 問	3.6
全 国(公立)	1,137,844 人	14.2 問/18 問	78.7 %	15.0 問	3.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



小学校算数 B

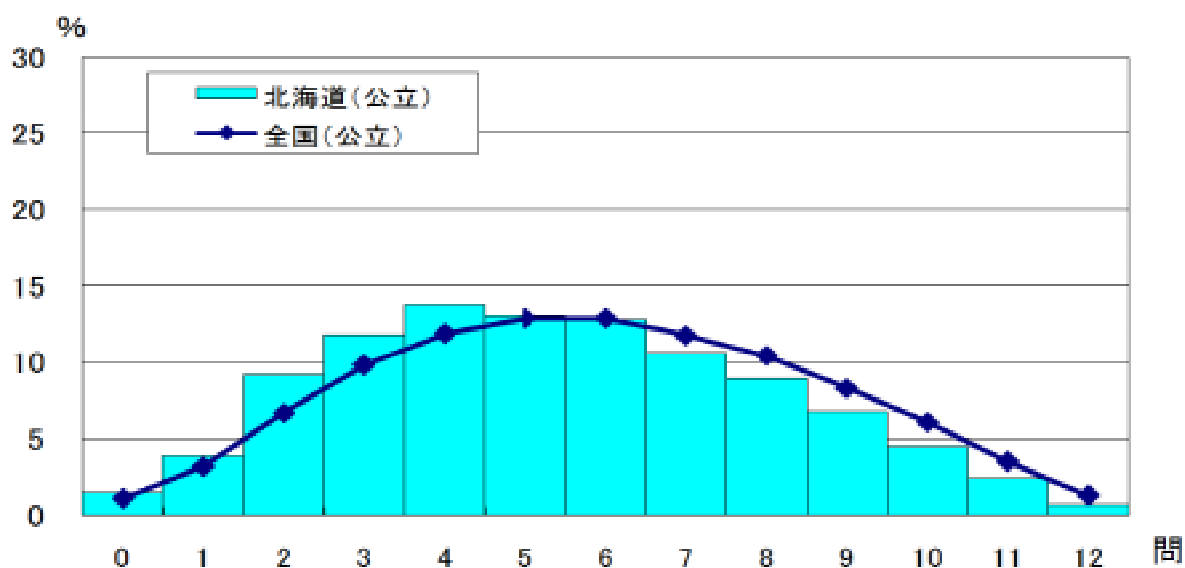
平均正答率が44.1%-46.1%であり、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に課題が見られる。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (44.1% - 46.1%) H 2 1 (51.5%)
全 国 : H 2 2 (49.1% - 49.5%) H 2 1 (54.8%)

【平成 2 2 年度】算数 B

	児童数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	9,121 人	5.4 問/12 問	44.1 % - 46.1 %	5.0 問	2.7
全 国(公立)	264,181 人	5.9 問/12 問	49.1 % - 49.5 %	6.0 問	2.7

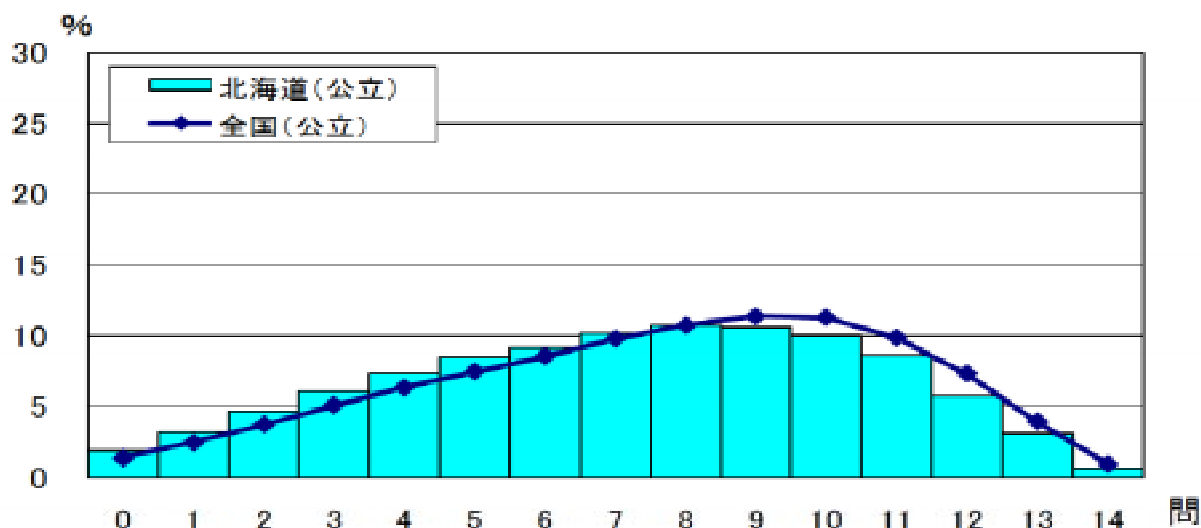
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



【平成 2 1 年度】算数 B

	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,899 人	7.2 問/14 問	51.5 %	7.0 問	3.3
全 国(公立)	1,137,624 人	7.7 問/14 問	54.8 %	8.0 問	3.3

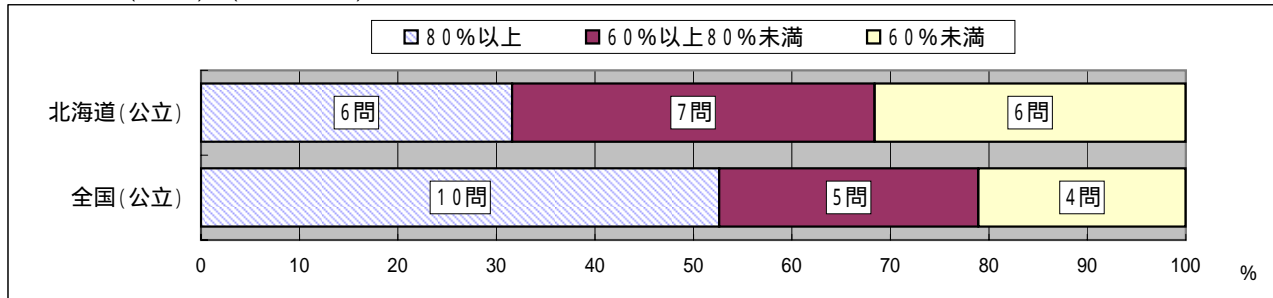
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



設問別の正答率に見る調査結果

算数A(知識)について、正答率80%以上は、19問中6問であり、正答率60%未満は、6問であった。
算数B(活用)について、正答率80%以上は、12問中1問であり、正答率60%未満は、9問であった。

1 算数A(知識) (小問19問)



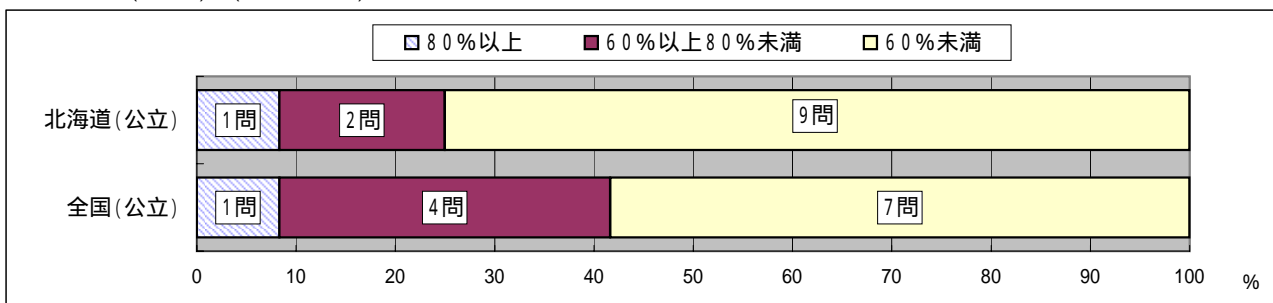
< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (0問/19問)

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (19問/19問)

19問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
5(2)	量と測定	台形の面積の求め方を理解し、面積を求めることができる	56.4%	70.1%	-13.7
1(6)	数量関係	加法と乗法の混合した整数の計算をすることができる	54.0%	65.9%	-11.9

2 算数B(活用) (小問12問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (0問/12問)

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (12問/12問)

12問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
1(2)	数量関係	計算の順序についてのきまりを理解し、最初に考えた式に()を書き加えて正しい式に修正できる	34.5%	42.2%	- 7.7
2(2)	図形	示された平面図形を基に台形の大きさを考え、平面上にかかれた立体図形と対応付けることができる	60.1%	65.6%	- 5.5

中学校国語 A

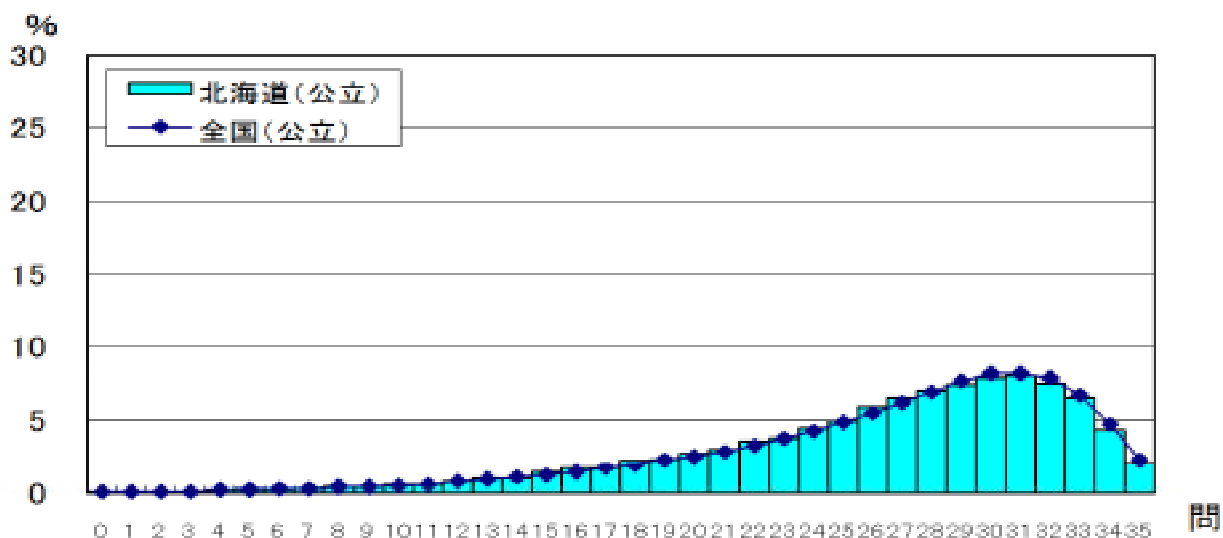
平均正答率が74.1%-75.3%であり、今回出題された学習内容の知識・技能について更に身に付けさせる必要がある。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (74.1% - 75.3%) H 2 1 (76.1%)
全 国 : H 2 2 (75.0% - 75.2%) H 2 1 (77.0%)

【平成 2 2 年度】国語 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	15,738 人	26.2 問/35 問	74.1 % - 75.3 %	28.0 問	6.3
全 国(公立)	420,942 人	26.3 問/35 問	75.0 % - 75.2 %	28.0 問	6.4

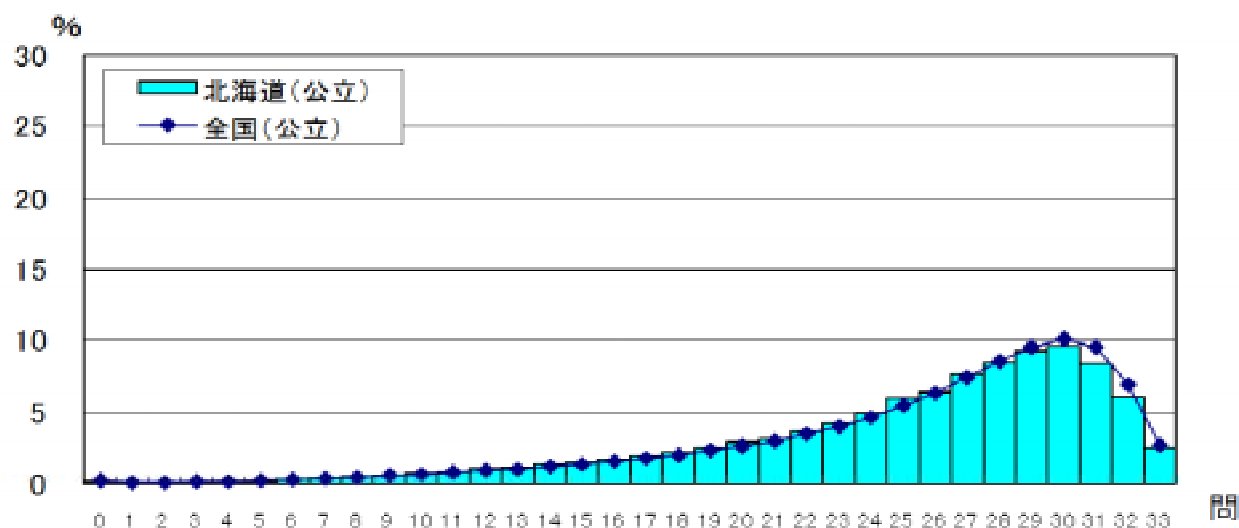
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



【平成 2 1 年度】国語 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,820 人	25.1 問/33 問	76.1 %	27.0 問	6.1
全 国(公立)	1,033,291 人	25.4 問/33 問	77.0 %	27.0 問	6.1

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



中学校国語 B

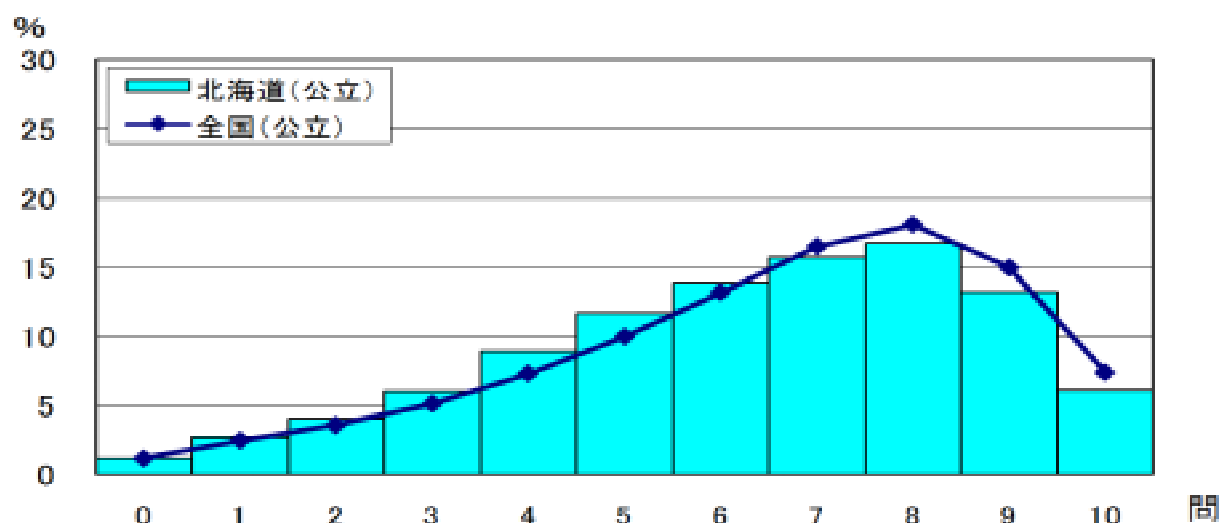
平均正答率が62.1%-63.7%であり、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に一部課題が見られる。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (62.1% - 63.7%) H 2 1 (72.6%)
全 国 : H 2 2 (65.1% - 65.5%) H 2 1 (74.5%)

【平成 2 2 年度】国語 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率の 95 %の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	15,742 人	6.3 問/10 問	62.1 % - 63.7 %	7.0 問	2.4
全 国(公立)	421,113 人	6.5 問/10 問	65.1 % - 65.5 %	7.0 問	2.4

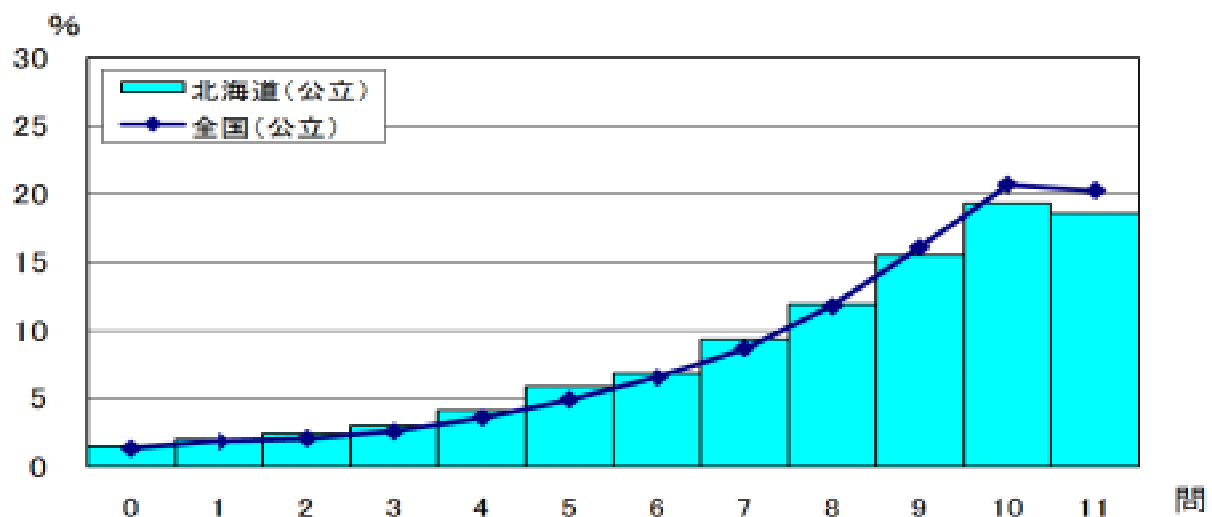
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



【平成 2 1 年度】国語 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,840 人	8.0 問/11 問	72.6 %	9.0 問	2.8
全 国(公立)	1,033,703 人	8.2 問/11 問	74.5 %	9.0 問	2.7

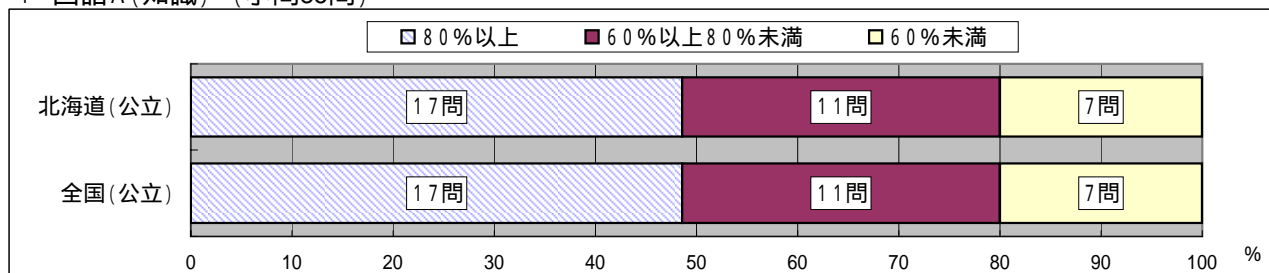
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



設問別の正答率に見る調査結果

国語A(知識)について、正答率80%以上は、35問中17問であり、正答率60%未満は、7問であった。
国語B(活用)について、正答率80%以上は、10問中3問であり、正答率60%未満は、5問であった。

1 国語A(知識) (小問35問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (15問/35問)

15問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
10三オ	言語事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	51.2%	48.8%	+2.4
9一ア	書くこと	伝えるべき内容について整理して書く	71.9%	69.8%	+2.1

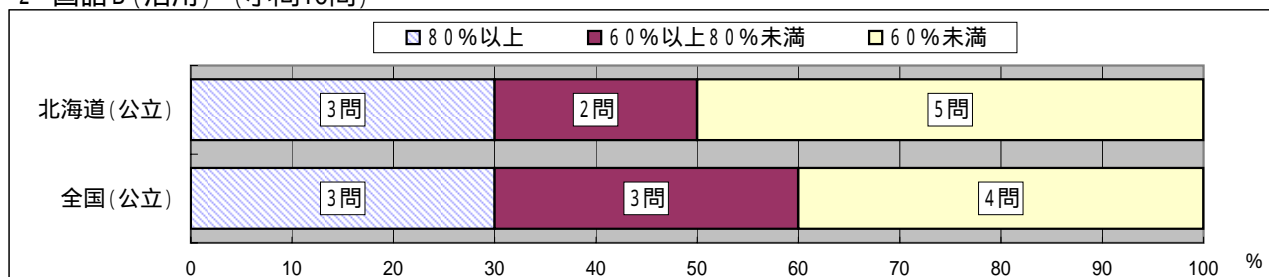
< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (19問/35問)

19問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
4二	書くこと	書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にする	38.6%	41.4%	-2.8
10三イ	言語事項	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	40.6%	43.2%	-2.6

平均正答率が全国と同じ設問は1問

2 国語B(活用) (小問10問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (2問/10問)

2問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
1二	読むこと	記事文における表現の仕方をとらえる	49.9%	48.9%	+1.0
3-B	読むこと	文脈の中における語句の意味を的確にとらえる	89.6%	89.2%	+0.4

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (8問/10問)

8問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
1三	読むこと 書くこと	記事文に書かれている内容をもとに、自分の考えを書く	43.1%	51.6%	-8.5
2三	聞くこと 話すこと 書くこと	資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明する	41.3%	45.6%	-4.3

中学校数学 A

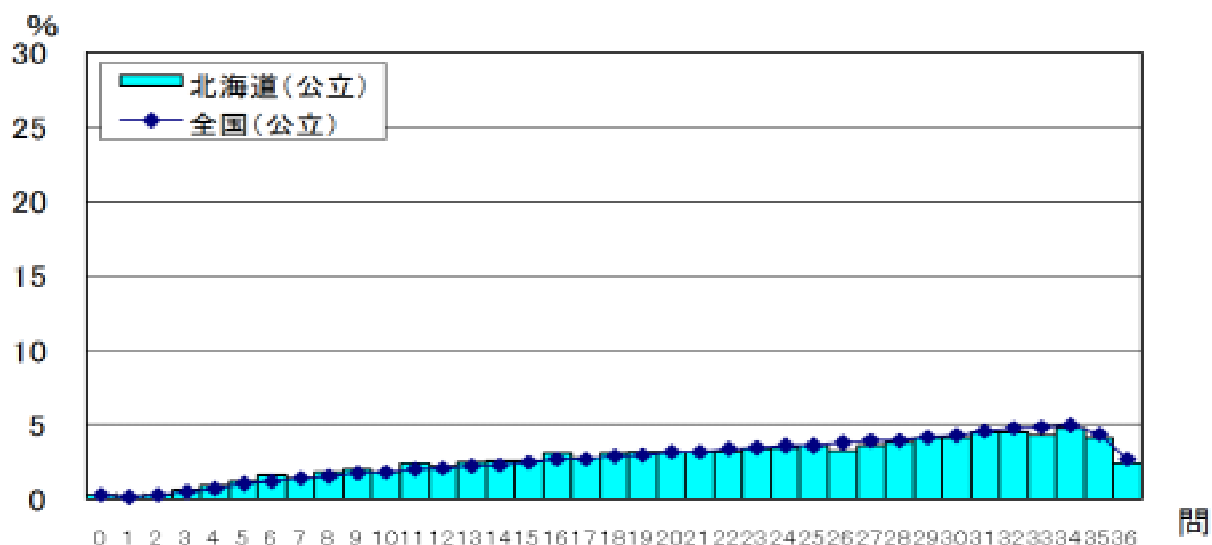
平均正答率が61.8%-63.6%であり、今回出題された学習内容の知識・技能の定着に一部課題が見られる。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (61.8% - 63.6%) H 2 1 (61.1%)
全 国 : H 2 2 (64.4% - 64.8%) H 2 1 (62.7%)

【平成 2 2 年度】数学 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	15,749 人	22.6 問/36 問	61.8 % - 63.6 %	24.0 問	9.0
全 国(公立)	421,250 人	23.3 問/36 問	64.4 % - 64.8 %	25.0 問	8.8

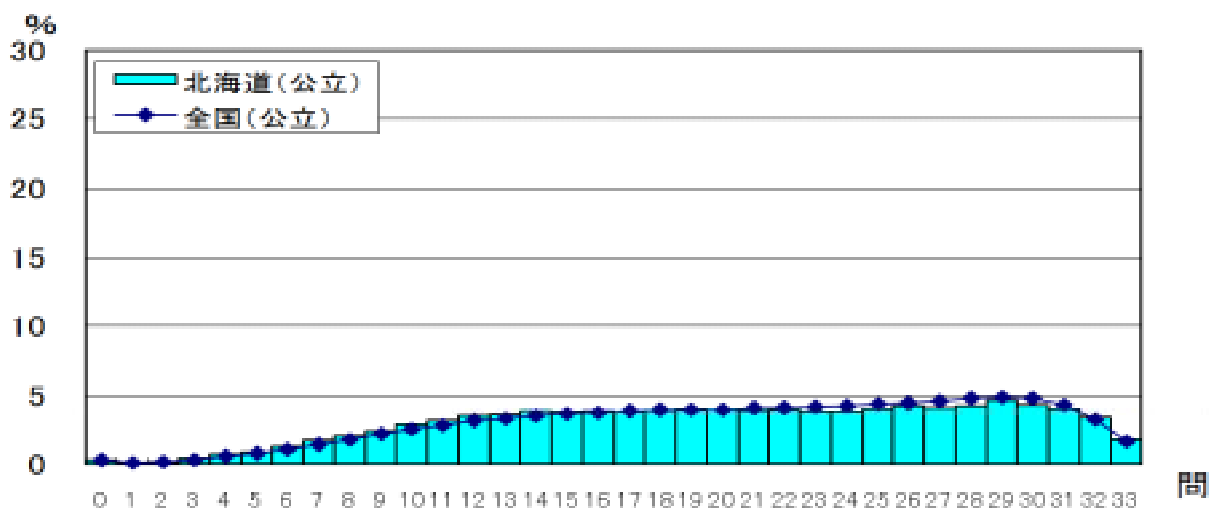
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



【平成 2 1 年度】数学 A

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,825 人	20.1 問/33 問	61.1 %	20.0 問	7.8
全 国(公立)	1,033,885 人	20.7 問/33 問	62.7 %	21.0 問	7.6

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



中学校数学 B

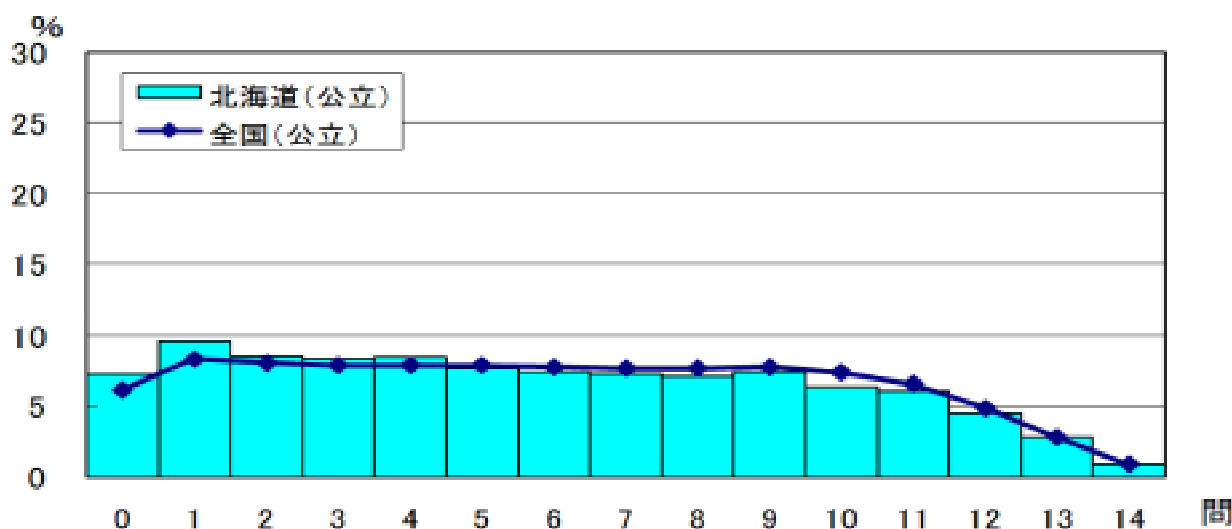
平均正答率が40.1%-42.4%であり、今回出題された学習内容の知識・技能を活用する力に課題が見られる。

〔平均正答率〕 道 : H 2 2 (40.1% - 42.4%) H 2 1 (55.4%)
全 国 : H 2 2 (43.1% - 43.5%) H 2 1 (56.9%)

【平成 2 2 年度】数学 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率の 95 % の信頼区間	中央値	標準偏差
北海道(公立)	15,742 人	5.8 問/14 問	40.1 % - 42.4 %	5.0 問	3.8
全 国(公立)	421,281 人	6.1 問/14 問	43.1 % - 43.5 %	6.0 問	3.8

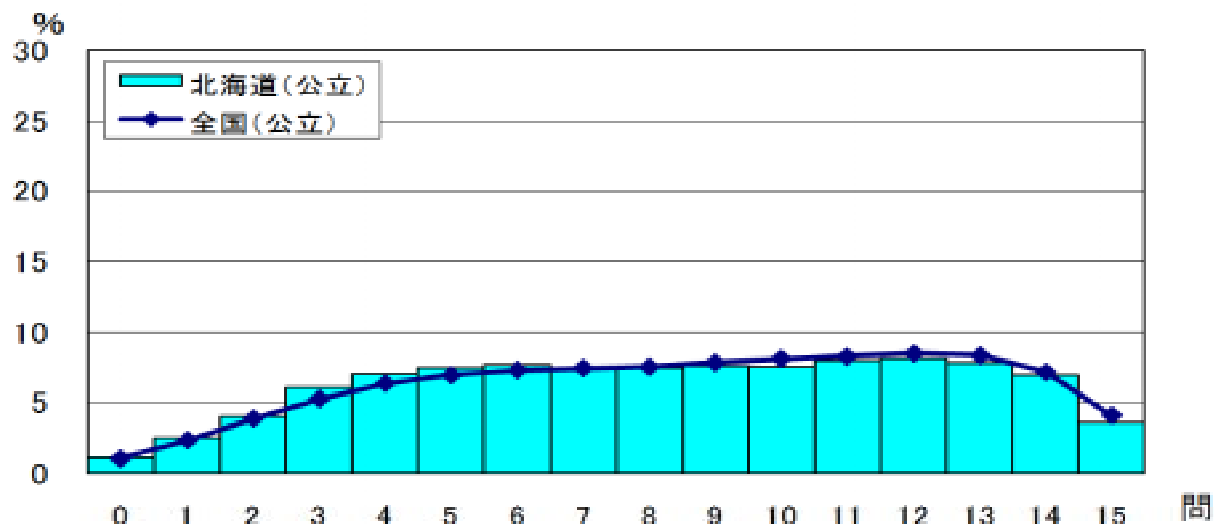
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



【平成 2 1 年度】数学 B

	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
北海道(公立)	45,792 人	8.3 問/15 問	55.4 %	8.0 問	3.9
全 国(公立)	1,033,909 人	8.5 問/15 問	56.9 %	9.0 問	3.9

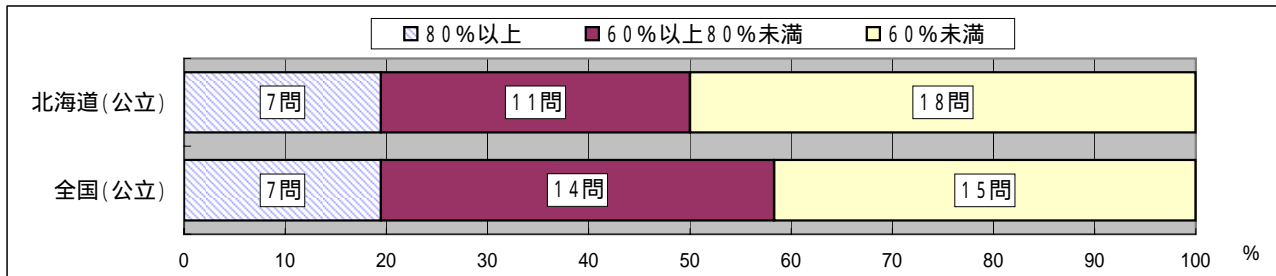
正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：生徒の割合）



設問別の正答率に見る調査結果

数学A(知識)について、正答率80%以上は、36問中7問であり、正答率60%未満は、18問であった。
 数学B(活用)について、正答率80%以上は、14問中0問であり、正答率60%未満は、13問であった。

1 数学A(知識) (小問36問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (5問/36問)

5問中2問を掲載した

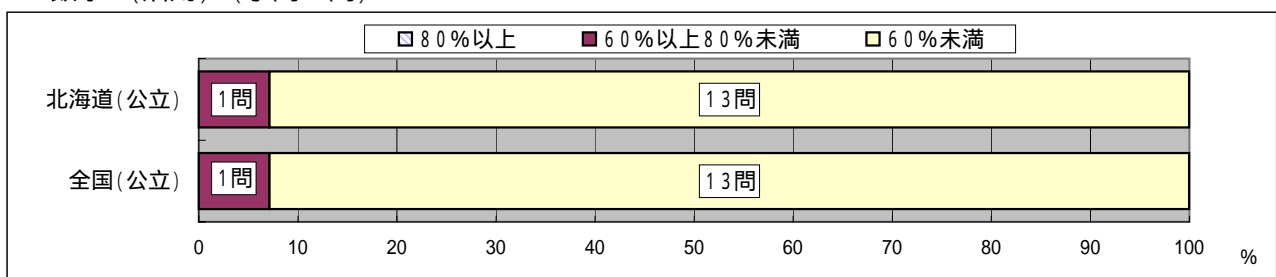
設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
9(3)	数量関係	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる	47.2%	45.0%	+ 2.2
14(2)	数量関係	確率の意味について理解している	65.8%	63.7%	+ 2.1

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (31問/36問)

31問中2問を掲載した

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
14(1)	数量関係	樹形図や表などを利用して、場合の数を求めることができる	59.5%	66.4%	-6.9
2(5)	数と式	等式を目的に応じて変形することができる	66.8%	72.1%	-5.3

2 数学B(活用) (小問14問)



< 平均正答率が全国を上回っている設問 > (0問/14問)

< 平均正答率が全国を下回っている設問 > (14問/14問)

設問番号	領域等	出題の趣旨	北海道(公立)の正答率	全国(公立)の正答率	差
4(1)	図形	与えられた証明をよみ、そのしくみを考えることができる	42.8%	47.1%	- 4.3
1(1)	数量関係	必要な情報を適切に選択し、処理することができる	69.3%	72.7%	- 3.4

過去の調査問題との比較(国語)

過去の調査問題とは、平成19年度～平成21年度全国学力・学習状況調査における平成22年度と類似及び同一の問題を指す。

各調査の対象学年や問題の構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

小学校国語においては、文章全体の構成を考えて書くこと〔A5〕等について、高まりが見られるが、文学的な文章に登場する人物を相互に関連付けて読む〔A3〕等については、引き続き課題が見られる。

中学校国語においては、書いた文章を読み返し、読みやすく分かりやすい文章にすること〔A4(1)〕等について高まりが見られるが、記事文に書かれている内容をもとに自分の考えを書くこと〔B1(3)〕等については、引き続き課題が見られる。

中学校国語においては、3年前の小学校国語と比較して、文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くことについては高まりが見られるが、相手に応じて表現を工夫して書くことについては課題が見られる。

【小学校国語】

番号のAはA問題、BはB問題

道、全国の数値は、設問ごとの平均正答率

番号	指導学年	H22問題の概要	道	全国	過去の問題の概要	道	全国
A2	小5 小6	説明的な文章の中に入る適切な言葉を選択する	78.5	83.3	H19 A9 説明文の一部を読んで、内容に合うものを選択する	78.4	81.2
					H20 A9(1) 文章中の表現について言い換えた部分を抜き出す	35.5	40.9
					H20 A9(2) 筆者が伝えなかったこととして適切な内容を選択する	42.9	48.8
A3	小5 小6	物語の登場人物の関係をとりえて書く	59.8	65.0	H19 A10 物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	60.9	63.3
A4	小5 小6	メモを基にして、児童会だよりの中に入る適切な内容を書く	56.6	60.3	H19 A5 一文を二文に分けて書く	55.8	57.9
					H20 A3 文章を読み返して、書き直したほうがよい理由と方法を選択する	33.2	34.0
					H21 A8 接続語を使って一文を二文に分けて書く	11.2	15.0
A5	小5 小6	意見文に書く内容をまとめた4枚のカードを構成した順番に並べ替える	72.0	75.0	H20 B4 二つの意見文を比べて読み、文章の組立てとして適切な内容を選択する(小問2問)	55.9 33.0	59.7 35.9
A6	小5 小6	見学したことの説明の工夫として適切なものを選択する	81.1	83.2	H19 A7 スピーチで聞き手に分かりやすい話し方を選択する	54.7	55.8
					H20 A5 スピーチの内容に即して、カードを並べ替える	75.2	78.3
					H20 A6 下書きの文章と発表原稿とを比べ、工夫したところを書く	67.8	74.2
A7	小5 小6	国語辞典を活用して、複数の言葉の意味の中から適切なものを選択する	80.7	81.4	H20 A4 似た意味の言葉の使い分けとして適切な説明を選択する	49.3	53.4
B3(1)	小5 小6	発表の中で写真を示す場面として適切な箇所を選択する(小問2問)	78.3 74.1	80.7 77.9	H21 B4(1) 作戦カードを基に、ボールを渡す順番を整理する	81.6	86.2
					H21 B4(2) 作戦カードを基に、チームの攻め方を説明する(小問2問)	52.6 57.0	57.5 62.2

【中学校国語】 番号のAはA問題、BはB問題

道、全国の数値は、設問ごとの平均正答率

番号	指導学年	H 2 2 問題の概要	道	全国	過去の問題の概要	道	全国
A1	中 1	百人一首の上の句に続く下の句を選択する	83.6	83.6	H21 A8(5)2 古文と現代語訳とを対応させて内容をとらえる	63.7	65.8
A4(1)	中 1	修飾語に合わせて述語の部分を適切に書き直す	89.8	90.1	H21 A1(1) 主語に合わせて述語を正しく書き直す	45.2	50.8
A5(2)	中 2 中 3	文章の表現の特徴として適切なものを選択する	75.2	75.7	H21 A3(3) 本文の表現の仕方や特徴に注意して、内容を正確に読み取る	82.1	84.6
A10(7)	中 1	行書の特徴の説明として適切なものを選択する	44.3	46.7	H20 A6(4) 行書、楷書の特徴の説明として適切なものを選択する	78.4	80.3
A10(8)	中 2 中 3	読みやすい連絡板にするための先生の助言として適切なものを選択する	74.3	75.3	H19 A8(5) 文字の大きさや配列・配置を考えて書く	81.2	83.9
					H20 A6(5) 配列・配置に注意して書く	47.3	45.8
B1(2)	中 2 中 3	トップ記事とコラムとを比較し、書き方の特徴として適切なものを選択する	49.9	48.9	H20 B1(2) 文章が書かれた目的を考え、表現の仕方の特徴をとらえる	68.3	68.1
B1(3)	中 2 中 3	新聞を読んで、興味をもった記事について感想を書く	43.1	51.6	H19 B1(3) 情報をもとに、根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に相手に伝わるように書く	73.6	76.5
B2(1)	中 2 中 3	提示する資料に表れている工夫として適切なものを選択する	77.6	78.5	H21 B1(2) 表現の仕方や文章の特徴をとらえる	71.3	73.3
B2(2)	中 2 中 3	提示する資料に、説明したい内容を簡潔に書く	80.3	81.8	H20 B1(3)ア 資料に表れている工夫を自分の表現に役立てる	54.2	59.9

今年度の中学校第 3 学年が、小学校第 6 学年の時の調査問題(H19)との比較

【中学校国語】(H19 小学校国語との比較)

番号	指導学年	H 2 2 問題の概要	道	全国	H 1 9 小学校国語の問題の概要	道	全国
A3(1)	中 2 中 3	演説の話し方の特徴として適切なものを選択する	60.2	58.9	小 H19 A7 スピーチで聞き手に分かりやすい話し方を選択する	54.7	55.8
A4(2)	中 1	一文を二文に分けて書く	38.6	41.4	小 H19 A5 二つの内容が含まれた文を二つの文に分けて書く	55.8	57.9
A5(2)	中 2 中 3	文章の表現の特徴として適切なものを選択する	75.2	75.7	小 H19 A10 物語の一部を読んで、登場人物の心情として適切なものを選択する	60.9	63.3
A9(2)	中 2 中 3	小学生に向けた案内文となるように適切な文を書く	58.8	60.9	小 H19 B4(2) 客に対する勧誘の表現を適切に改めて書く	73.9	77.2
A10(1)	小 3 小 3	漢字を書く(相談)	73.5	76.0	小 H19 漢字を書く(相談)	49.4	58.3
A10(2)	小 5	漢字を読む(導く)	96.6	96.3	小 H19 漢字を読む(導く)	94.2	95.2
B2(2)	中 2 中 3	提示する資料に、説明したい内容を簡潔に書く	80.3	81.8	小 H19 B2(3)1 情報の中から必要な事柄を取り出して、新聞の一部に注意点として書き換える	44.1	49.3

過去の調査問題との比較(算数・数学)

過去の調査問題とは、平成 19 年度～平成 21 年度全国学力・学習状況調査における平成 22 年度と類似及び同一の問題を指す。

各調査の対象学年や問題の構成等が異なるため、単純な比較ができないことに留意する必要がある。

小学校算数においては、基本的な図形の定義や性質[A8(2)]等の理解について高まりが見られるが、割合の理解[B5(2)]等については、引き続き課題が見られる。

中学校数学においては、文字式[(A2(2))]や方程式の理解[(A3(3))、基本的な図形の定義や性質[A7(3)]等の理解について高まりが見られるが、図形の証明[A7(2)]や関数の理解[A11(2)]、[A12]等については、引き続き課題が見られる。

中学校数学においては、3 年前の小学校算数と比較して、文字式や数量の関係の理解については高まりが見られるが、図形における面積、体積の表現・処理や関数関係の理解については課題が見られる。

【小学校算数】 番号の A は A 問題、B は B 問題 道、全国の数値は、設問ごとの平均正答率

番号	指導学年	H22 問題の概要	道	全国	過去の問題の概要	道	全国
A1(1)	小3	2 4 3 - 6 5	84.1	86.9	H20 A1(1) 1 3 2 - 1 2 4	90.3	93.1
A1(2)	小5	2 7 × 3 . 4	80.9	84.3	H19 A1(2) 2 7 × 3 . 4	81.4	85.6
					H19 A1(3) 9 . 3 × 0 . 8	79.3	84.8
A1(3)	小4	9 1 2 ÷ 4	87.0	89.6	H21 A1(3) 2 0 4 ÷ 4	93.7	95.4
A1(4)	小4	8 - 0 . 5	75.5	83.2	H20 A1(3) 6 + 0 . 5	76.9	83.1
A1(6)	小4	5 0 + 1 5 0 × 2	54.0	65.9	H19 A1(7) 6 + 0 . 5 × 2	55.0	69.1
					H20 A1(5) 3 + 2 × 4	60.1	71.1
					H21 A1(6) 8 0 - 3 0 ÷ 5	55.8	67.0
A2(1)	小5	8m の重さが 4kg の棒の 1m の重さを求める	45.2	53.8	H20 A4(2) 6m のテープの長さは 12m のテープの長さの何倍かを求める	50.4	55.7
A3	小4 小5	図の塗られた部分の面積の分数を選ぶ	64.4	68.6	H19 A2 正方形の面積の 2/3 が塗られている図を選ぶ	88.2	89.3
A7	小5	平行四辺形の 1 つの頂点をさがす	69.2	76.1	H19 A6(2) 方眼紙上で、3 点が与えられた平行四辺形の残りの点の位置を選ぶ	84.0	88.6
A8(2)	小3 小4	長方形 1 本の対角線を切って組み合わせてできた図形の名前を選ぶ	81.3	84.7	H20 A8(1) ひし形を 1 本の対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	71.3	77.6
					H20 A8(2) ひし形を 2 本の対角線で切ったときにできる三角形の名前を答える	51.6	64.3
					H21 A5(2) 長方形を 1 本の対角線で切ったときにできる図形の名前を選ぶ	77.8	83.5
A9(1)	小5	じゃがいも畑の面積 4 0 m ² が学校の畑の面積 5 0 m ² のどれだけの割合に当たるのかを書く	48.4	57.4	H20 A9(2) 620 冊の本の 40% の冊数を求める式と答えを書く	41.6	55.1
					H21 A7 200 人のうち 80 人が女子のとき、女子の人数の割合は全体の何%か選ぶ	53.8	57.1
B5(2)	小5	割引券を使うと値引きされる金額が最も大きくなる商品を選び、そのわけを書く	12.7	17.1	H20 B2(3) 米の生産額について、「割合が減っているから、生産額は減っている」という考え方が正しいかどうかを判断し、そのわけを書く	13.3	17.6
					H21 B5(3) 4 月と 6 月の全体の重さを基にしたペットボトルの重さの割合の大小関係をとらえ、判断のわけを書く	14.5	17.9

【中学校数学】

番号	指導学年	H22問題の概要	道	全国	過去の問題の概要	道	全国
A1(1)	小6	$1/4 + 2/5$	81.4	84.7	H20 A1(1) $5/7 - 2/3$	78.9	85.6
A1(2)	中1	- 10より大きい負の整数を1つ書く	73.5	74.5	H19 A1(2) $1/3$ 、0、- 2、4、- $1/2$ の中から、最小の数を選ぶ	81.6	85.7
A1(3)	中1	150を基準にして、128を負の数で表す	83.4	85.5	H20 A1(2) 正の数と負の数で表した2つの市の最低気温の差を求める	73.2	77.6
A2(2)	中1	210aで表される事象を選ぶ	70.0	74.5	H20 A2(5) $3a + 4b$ で表される事象を選ぶ	25.1	32.7
A2(3)	中1	$x = 3$ のときの $12/x$ の値を求める	88.1	90.3	H19 A2(2) $a = 5$ 、 $b = -4$ のときの $3a + 5b$ の値を求める	81.6	83.8
					H20 A2(2) $a = 4$ 、 $b = -3$ のときの ab の値を求める	58.2	71.7
A2(4)	中2	2けたの自然数を表す式を選ぶ	62.3	65.9	H20 A2(3) n を自然数とすると、いつでも奇数になる式を選ぶ	66.4	72.9
A2(5)	中2	等式 $2x + y = 5$ を、 y について解く	66.8	72.1	H19 A2(4) $2x + 3y = 9$ を y について解く	53.0	57.1
					H20 A2(4) $x + 2y = 6$ を y について解く	50.8	55.0
					H21 A2(4) $S = 1/2 ah$ を a について解く	39.9	45.7
A3(2)	中1	$(x + 1)/5 = 2$	54.6	58.1	H21 A3(2) $3/4x = 1/4x - 7$	48.7	53.5
A3(3)	中2	連立方程式 $\begin{cases} 3x + 2y = 9 \\ x + y = 4 \end{cases}$	74.8	78.3	H19 A3(4) 連立方程式 $\begin{cases} 5x + 7y = 3 \\ 2x + 3y = 1 \end{cases}$	67.3	72.7
					H20 A3(4) 連立方程式 $\begin{cases} y = 3x - 1 \\ 3x + 2y = 16 \end{cases}$	70.0	77.4
					H21 A3(4) 連立方程式 $\begin{cases} 2x - 3y = 1 \\ 3x + 2y = 8 \end{cases}$	69.9	73.5
A3(4)	中2	連立方程式をつくるために着目する数量を選び、式で表す	71.1	72.1	H19 A3(3) 数量の関係を連立二元一次方程式で表す	67.5	71.2
					H21 A3(3) 一元一次方程式をつくるために、着目する数量を答える	33.4	36.3
A4(1)	中1	線対称な図形の対称軸を選ぶ	68.2	68.5	H19 A4(1) 線対称な図形の対称軸を選ぶ	81.8	83.9
A4(2)	中1	垂直な作図の手順を選ぶ	85.3	85.9	H19 A4(2) 角の二等分線の作図の手順を選ぶ	84.1	86.2
A7(2)	中2	証明で用いられている合同条件を選ぶ	54.0	55.4	H19 A8 証明で用いられた三角形の合同条件を選ぶ	72.1	73.9
A7(3)	中2	平行四辺形になるための条件を、記号を用いて表す	59.4	61.9	H20 A7 平行四辺形になるための条件を、記号を用いて表す	48.9	58.2
					H21 A7(2) 底角が等しいことを記号を用いて表す	67.7	70.2
A8	中2	証明された事柄に新たな条件を付け加えた事柄について、正しい記述を選ぶ	47.9	48.7	H19 A7 証明の意義や必要性について、正しいものを選ぶ	72.8	73.6
					H20 A8 証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについての正しい記述を選ぶ	54.6	58.3
					H21 A8 三角形の内角の和が 180° であることの証明について正しいものを選ぶ	29.4	29.7

A9(3)	中 2	比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求める	47.2	45.0	H20 A10 比例のグラフ上に、 x の変域に対応する部分を図示する	39.8	44.1
A10(1)	中 1	$y = 3/x$ について、正しい記述を選ぶ	47.6	48.8	H21 A9(1) $y = 3x$ について、正しい記述を選ぶ	51.7	54.9
A11(1)	中 2	一次関数の式から変化の割合を求める	51.7	51.6	H20 A12(1) 一次関数の式からグラフの傾きを求める	48.3	54.2
A11(2)	中 2	一次関数のグラフから式を求める	54.7	55.2	H19 A9(2) 比例のグラフから式を求める	63.3	67.7
A12	中 2	水槽に水を入れ始めてからの時間と水の量の関係について、正しい記述を選ぶ	45.9	48.9	H21 A11(2) 一次関数の事象を式で表す	51.6	56.4
A13	中 2	連立二元一次方程式の解を、グラフ上の点から選ぶ	59.1	58.7	H19 A13 連立方程式の解をグラフ上の点から選ぶ	65.6	69.5
A14(1)	中 2	総当たり戦の試合数を求める	59.5	66.4	H19 A14(2) 総当たり戦の試合数を求める	62.1	68.1
A14(2)	中 2	1 枚の硬貨を投げるときの確率について正しい記述を選ぶ	65.8	63.7	H19 A14(1) 確立を表した事象を選ぶ	50.0	49.9

今年度の中学校第 3 学年が、小学校第 6 学年の時の調査問題(H19) との比較

【中学校数学】(H19 小学校算数との比較)

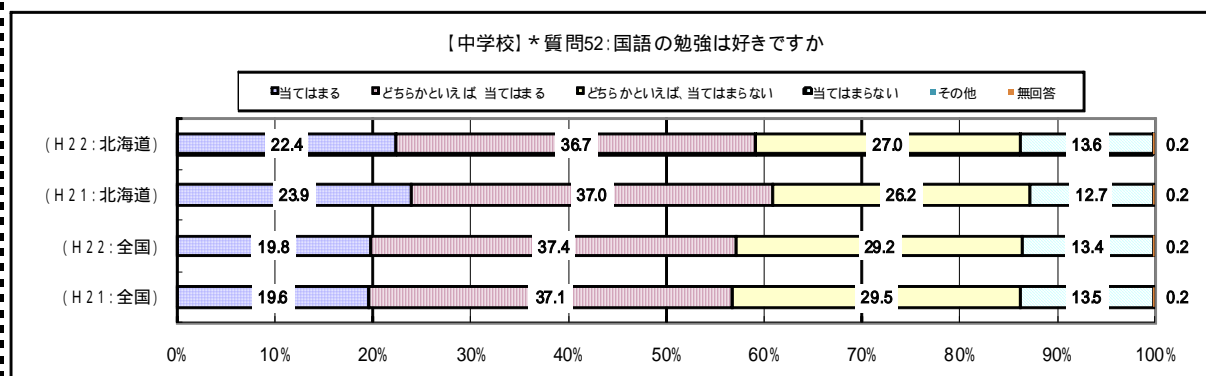
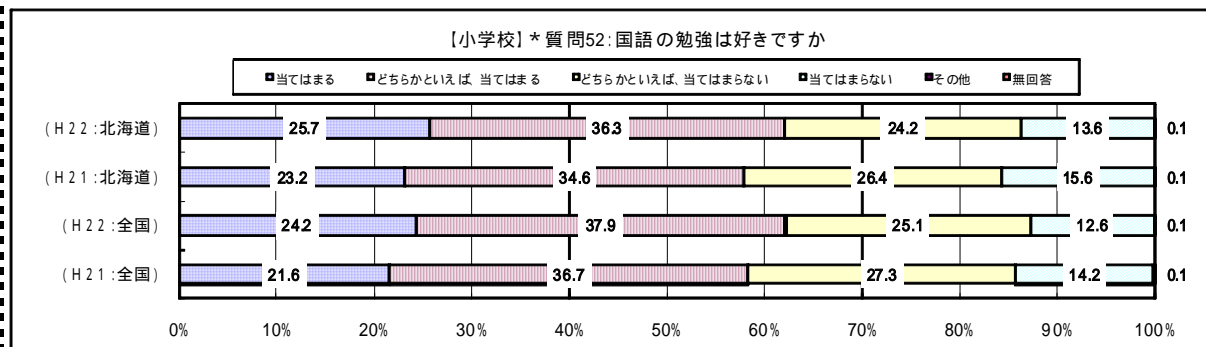
番号	指導学年	H 2 2 問題の概要	道	全国	H 1 9 小学校算数の問題の概要	道	全国
A2(2)	中 1	式 $210a$ で表される事象を選ぶ	70.0	74.5	小 H19 A4 210×0.6 の式で答えが求められる問題を選ぶ	48.3	54.3
A5(4)	中 1	円柱の体積を求める式と答えを書く(円柱の底面が半径 10cm の円)	35.8	39.9	小 H19 A5(3) 半径 10 cm の円の面積を求める式と答えを書く	61.9	73.2
A11(3)	中 2	<p>16 cm の長さのひもで作る長方形の縦の長さと横の長さの関係を式で表す</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(3) 長さ 16cm のひもを使って、いろいろな形の長方形を作る。長方形の縦の長さを変えると、横の長さがどのように変わるかを調べる。長方形の縦の長さを x cm、横の長さを y cm とするとき、y を x の式で表しなさい。</p> </div>	20.5	22.9	<p>小 H19 A7(3) 16 cm のひもで作った長方形の縦の長さが 1 cm ずつ増えるときの横の長さの変化を答える</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(3) 長方形や正方形のたての長さが 1cm ずつ増えると、横の長さはどうなるか。解答用紙に当てはまる数をかき、「増える」、「減る」かのどちらかを でかこみなさい。</p> </div>	70.9	75.3

質問紙調査

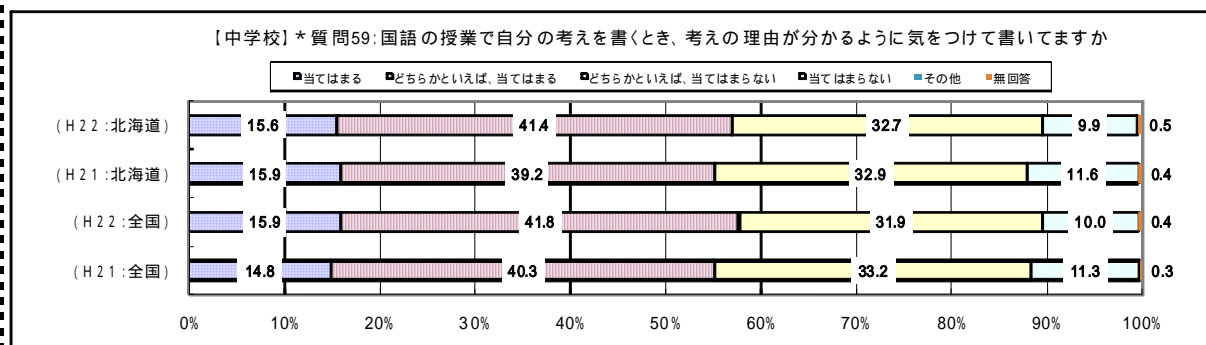
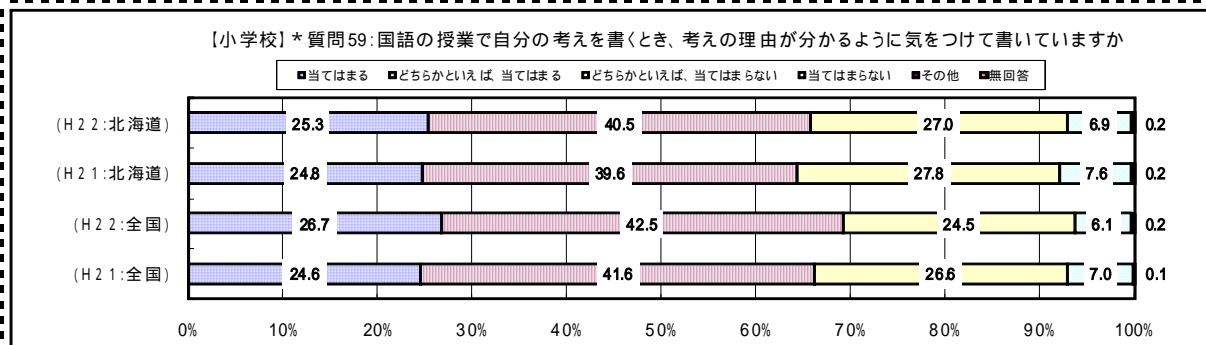
児童生徒質問紙

< 学習に対する関心・意欲・態度 >

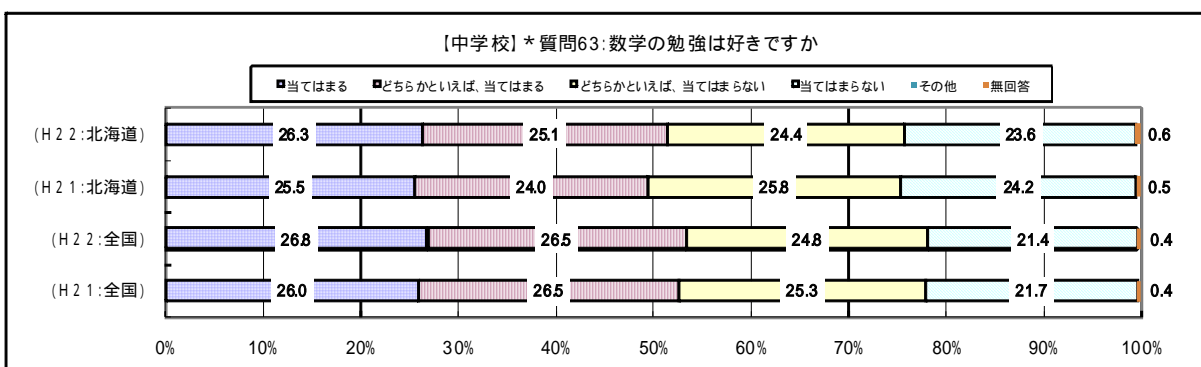
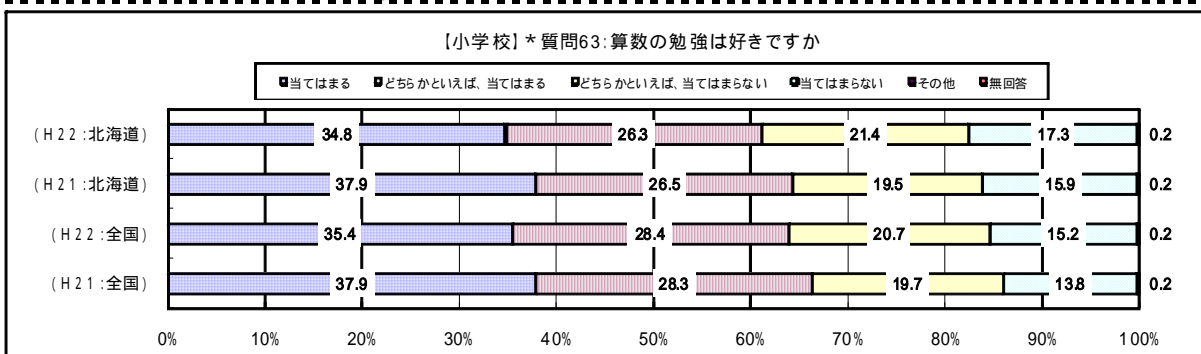
国語の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度より若干高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



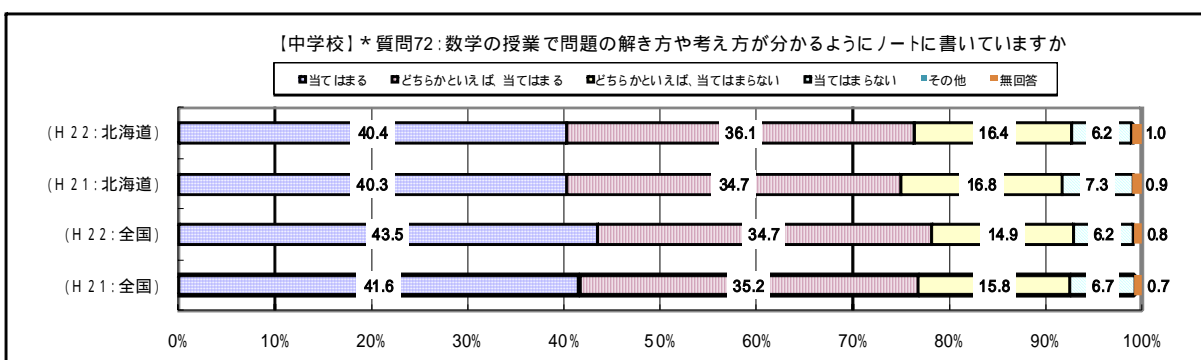
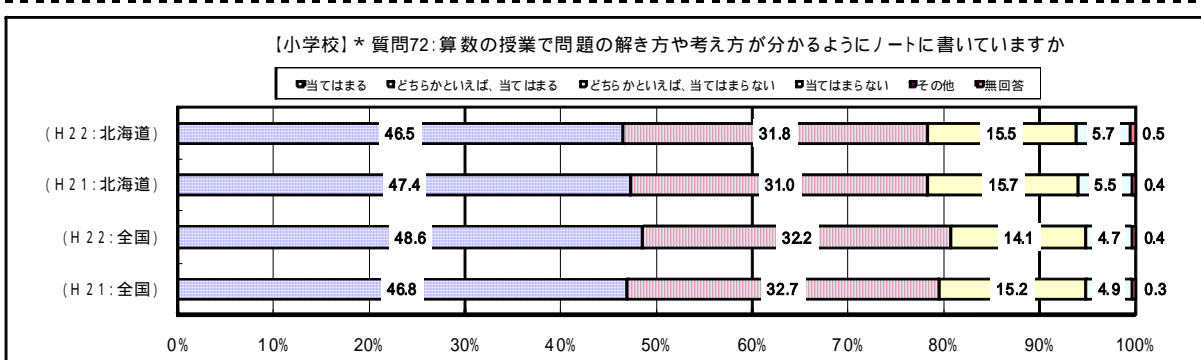
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いている児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.4ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



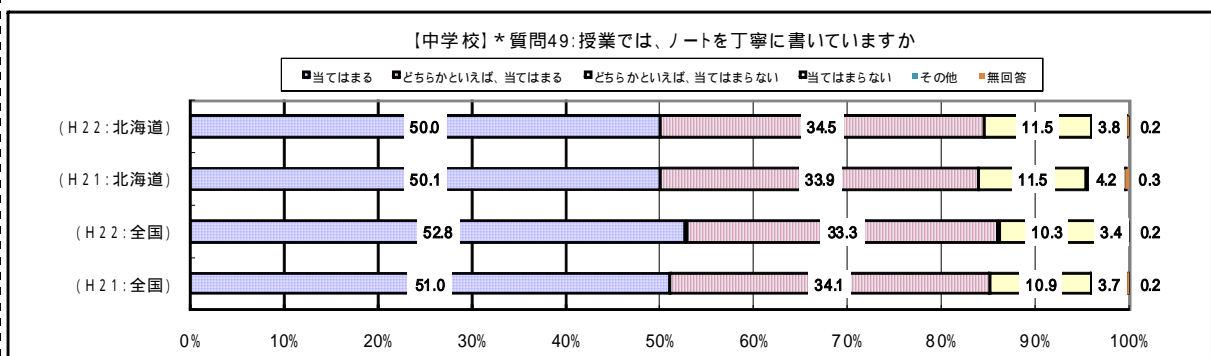
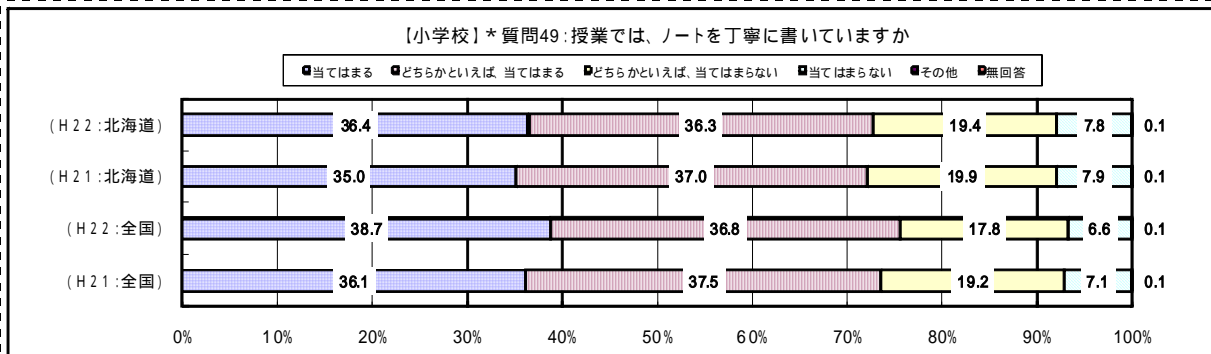
算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度より若干低く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いている児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

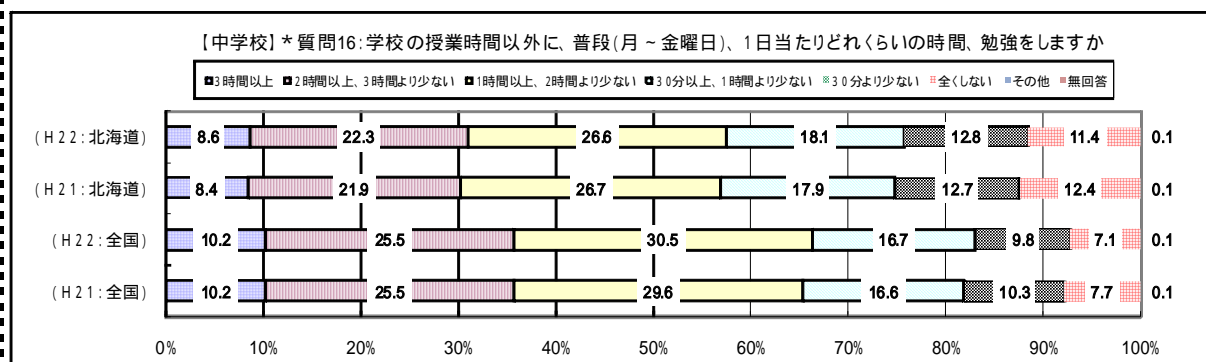
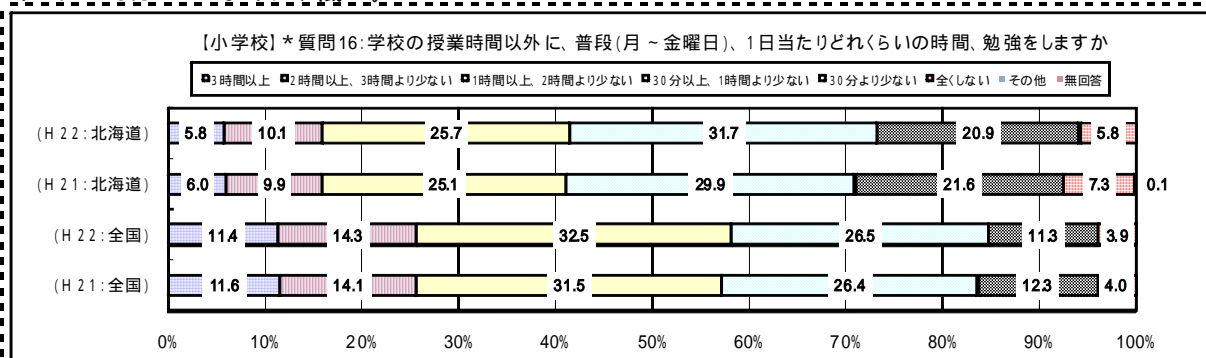


授業でノートを丁寧に書いている児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

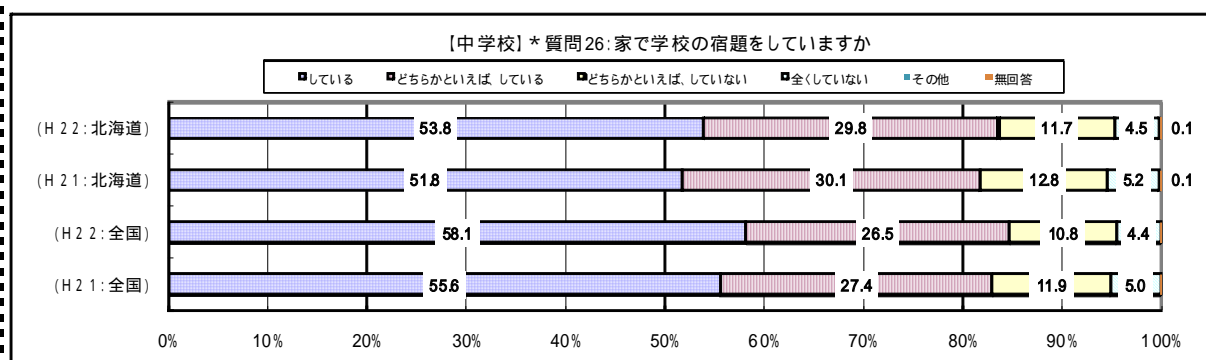
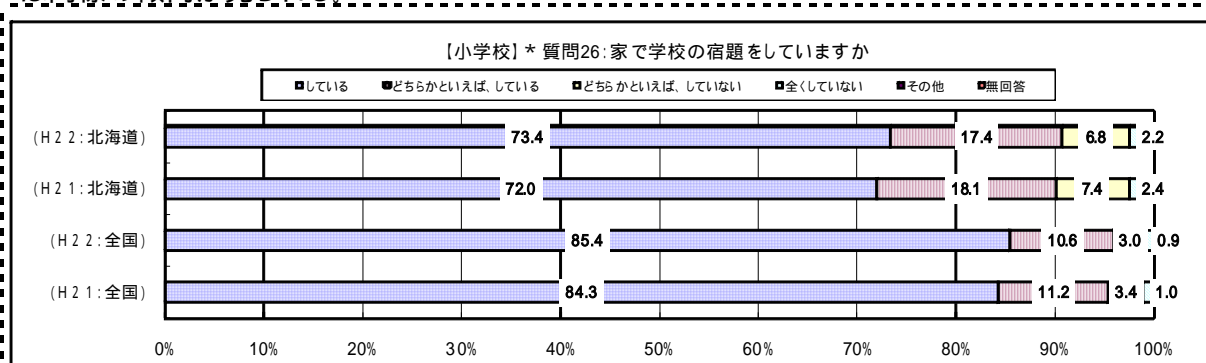


< 学習時間等 >

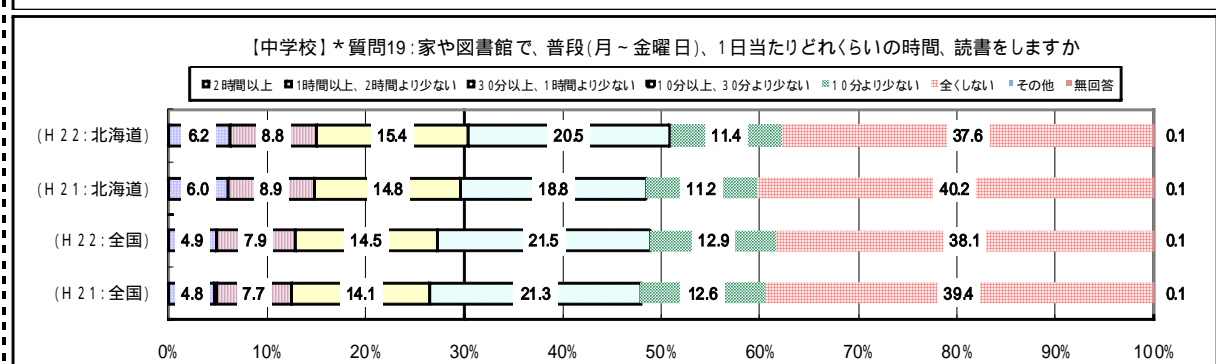
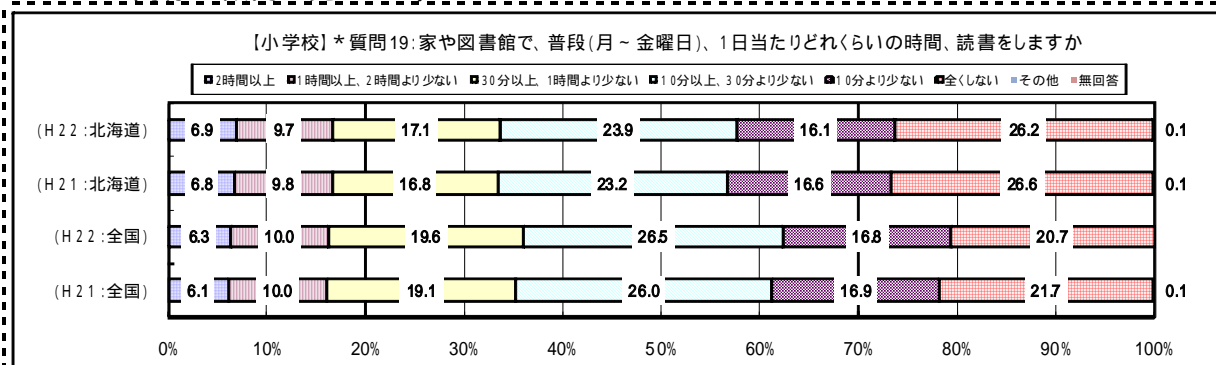
1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては16.6ポイント低く、中学校調査においては8.7ポイント低い。



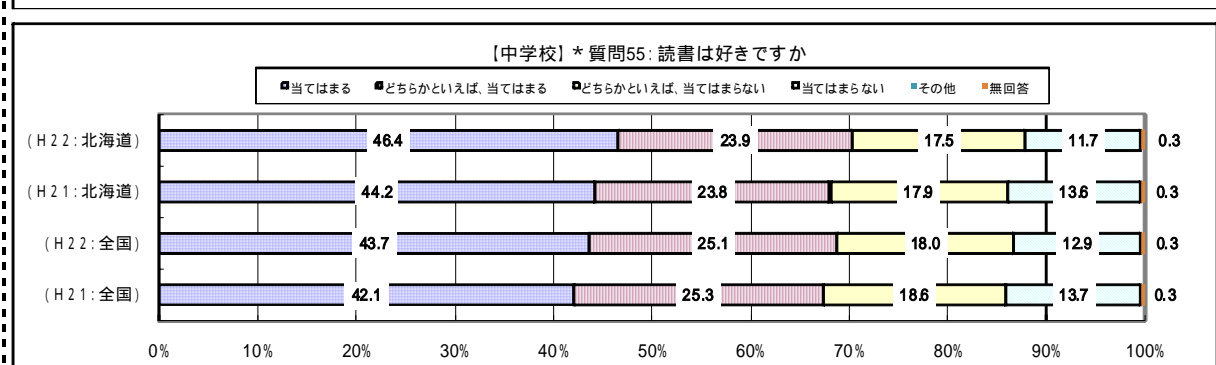
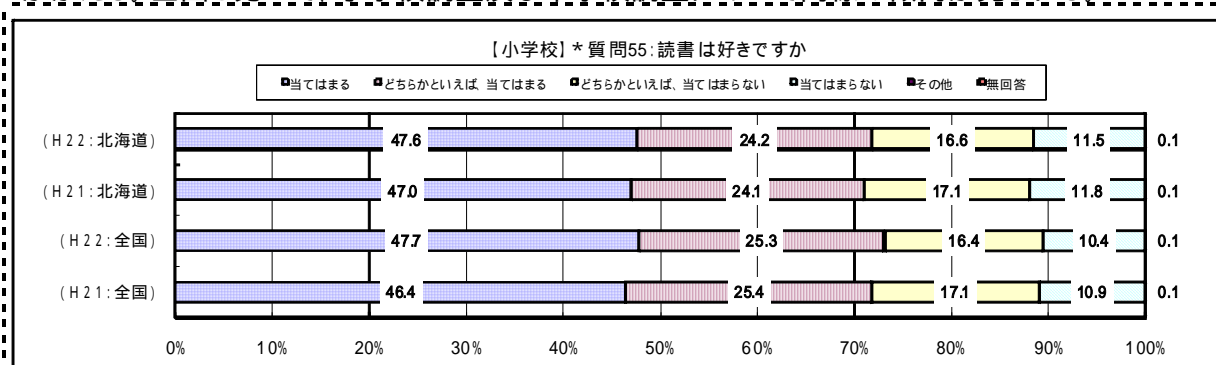
家で学校の宿題をする児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては5.2ポイント低く、中学校調査においては8.7ポイント低い。



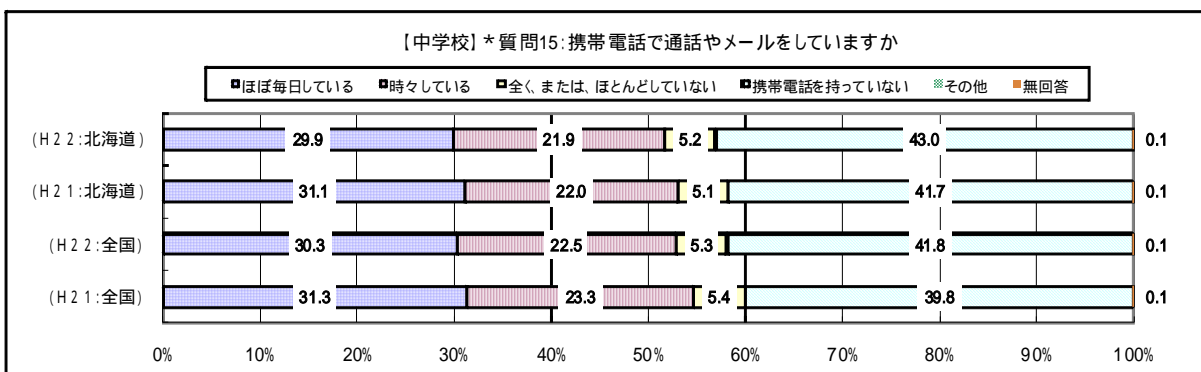
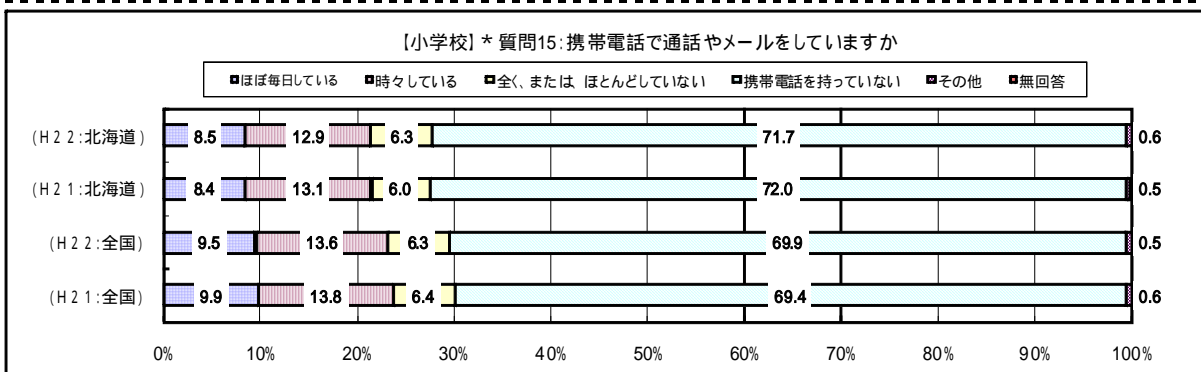
1日に10分以上読書をする児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては4.8ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



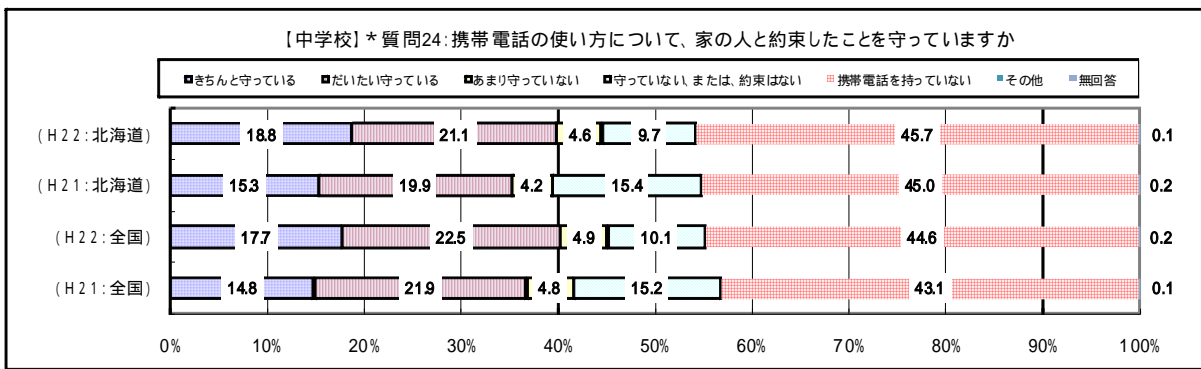
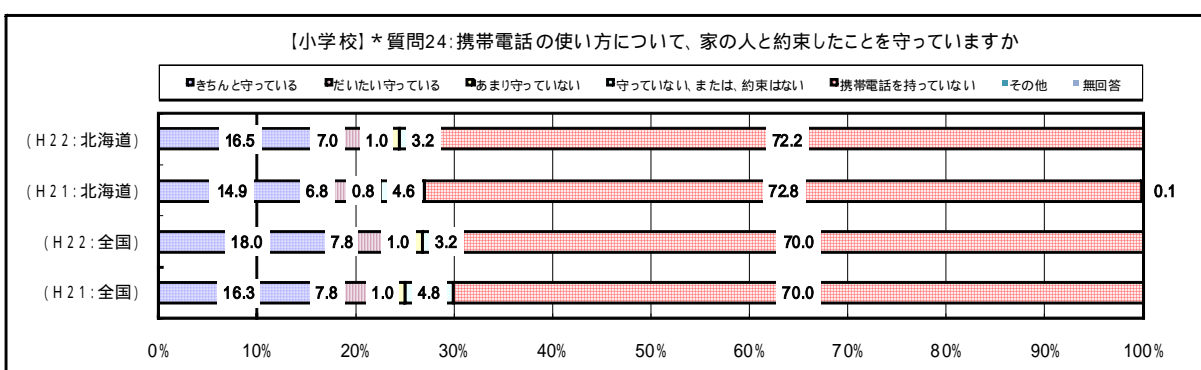
読書が好きな児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



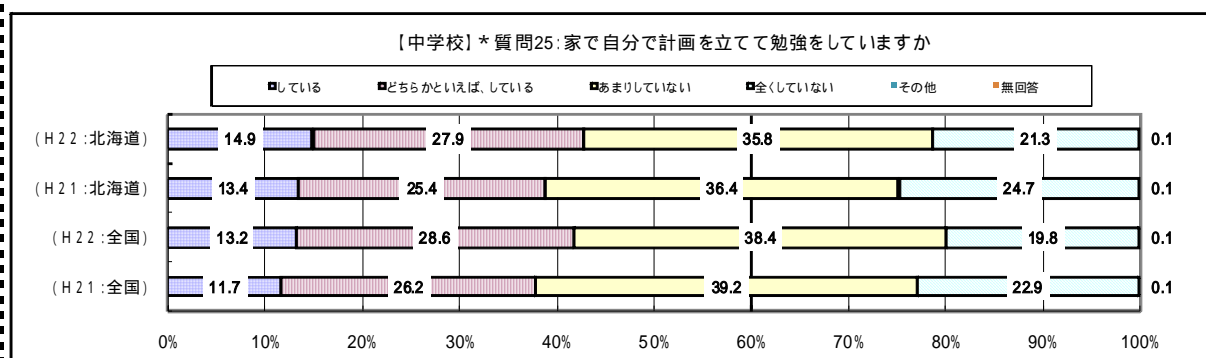
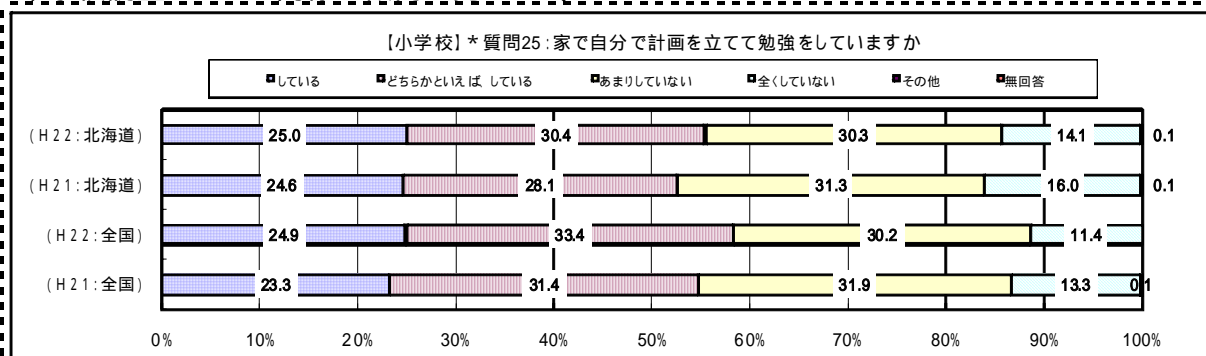
携帯電話で通話やメールをしている児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度より若干高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

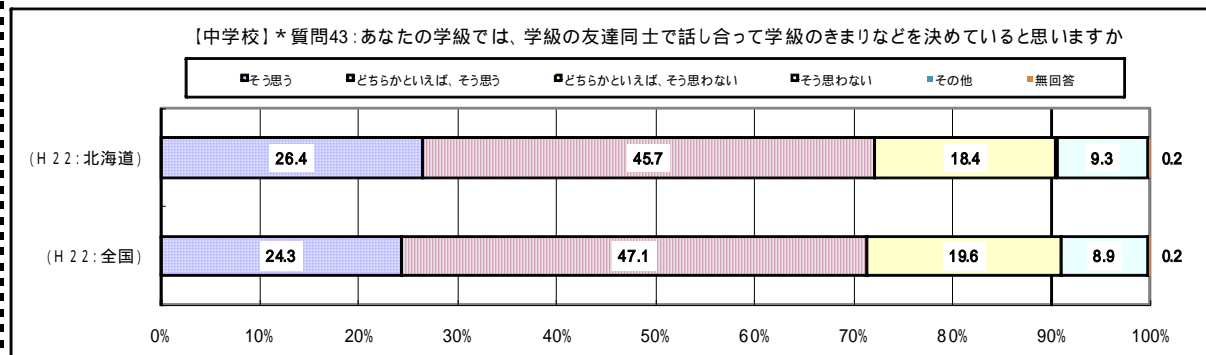
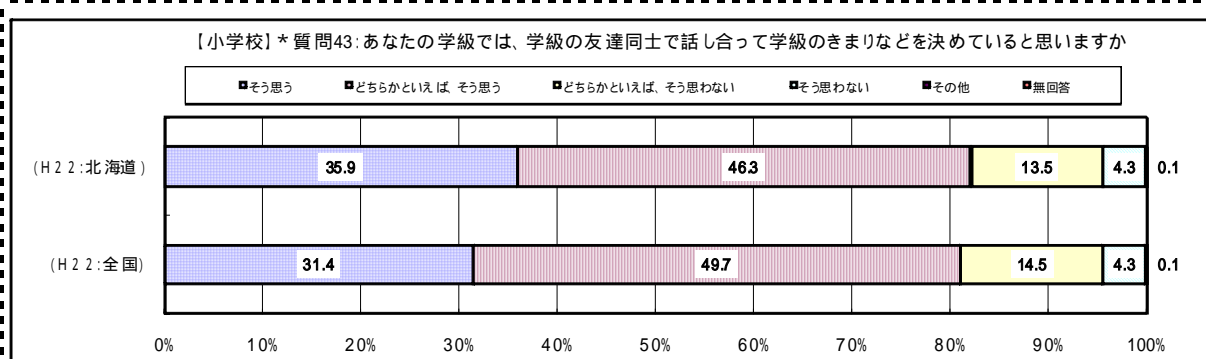


家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より若干高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



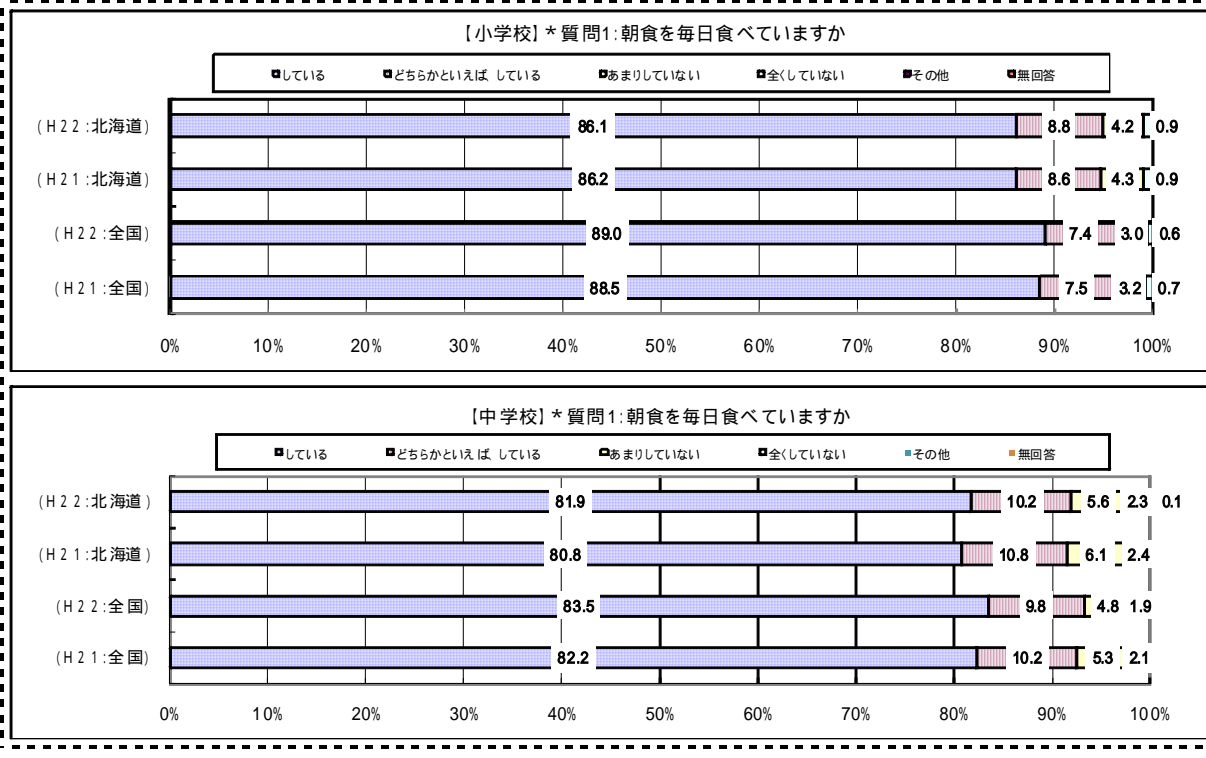
< 学校生活等 >

学級のきまりなどを友達同士で話し合っている児童生徒の割合は、全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



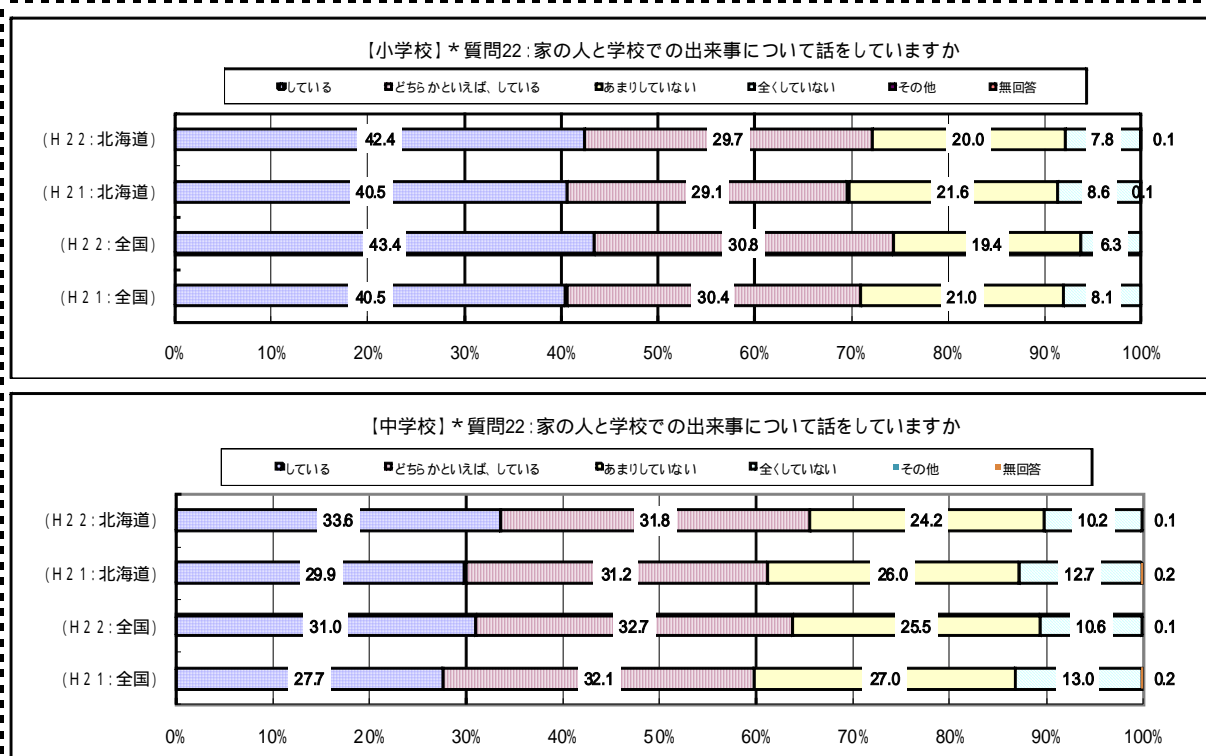
< 基本的生活習慣 >

朝食を毎日食べる児童生徒の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



< 家庭でのコミュニケーション >

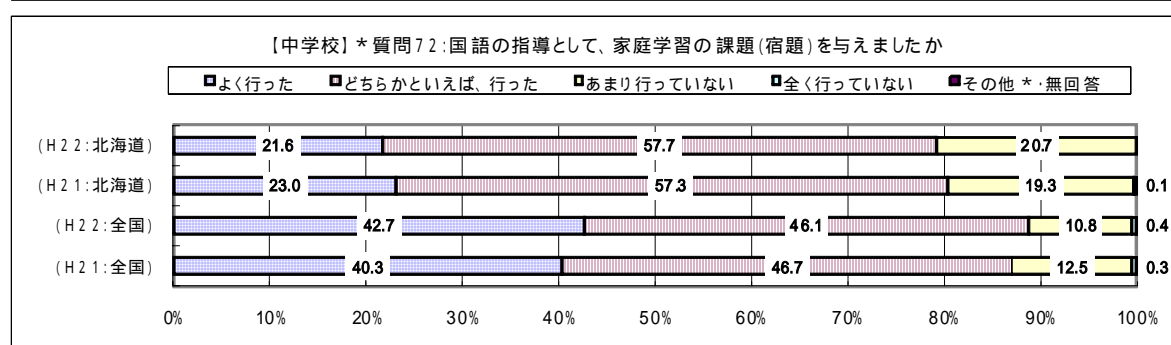
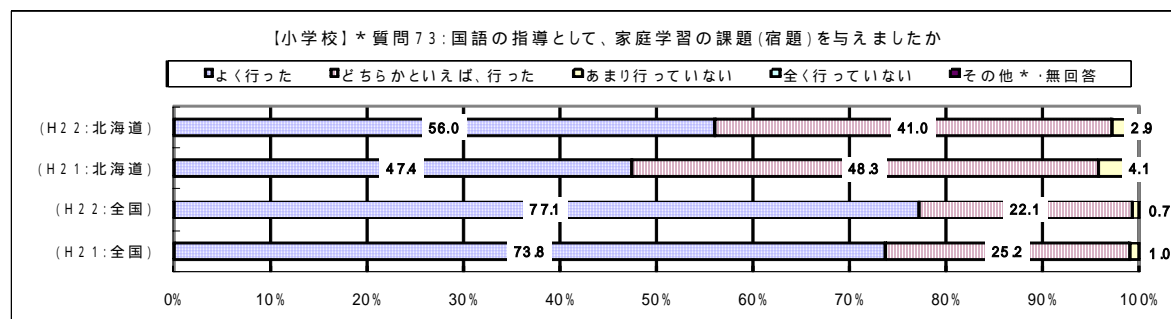
家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より若干高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。



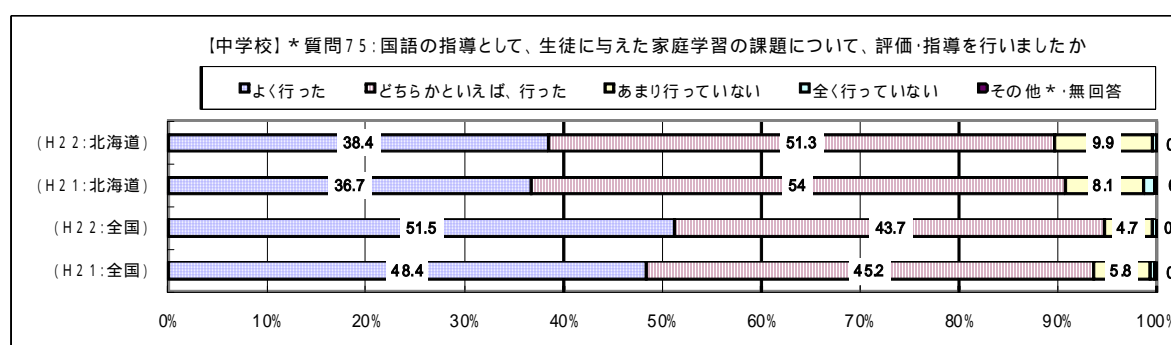
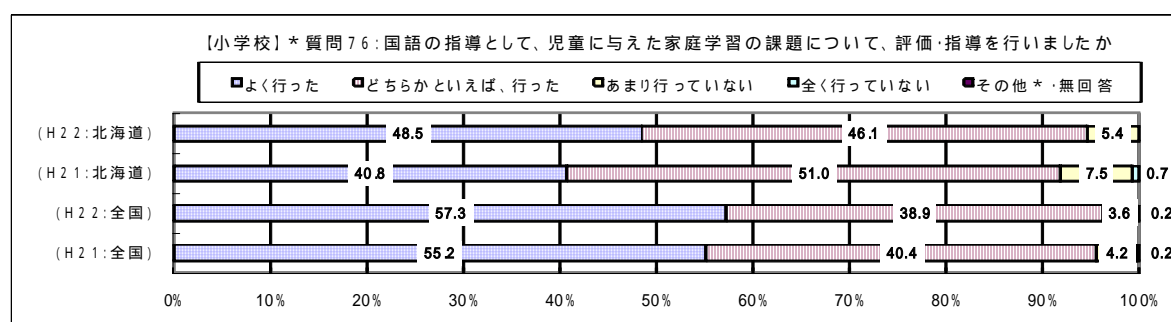
学校質問紙

< 家庭学習・家庭との連携 >

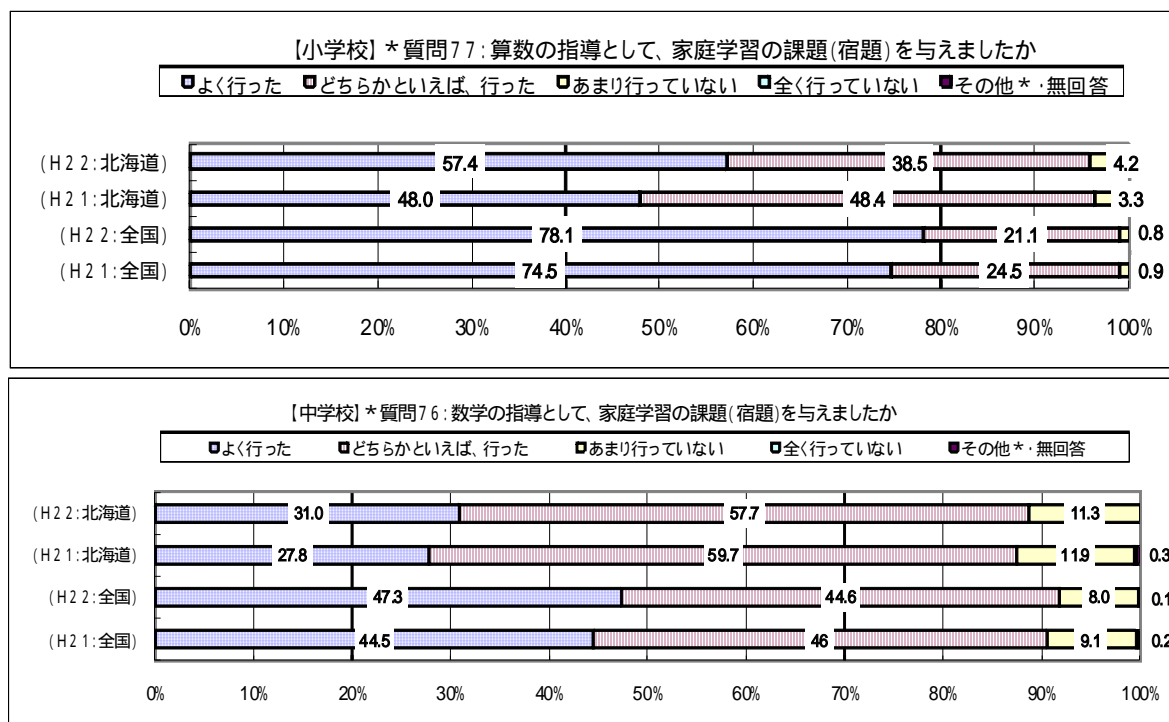
国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては9.5ポイント低い。



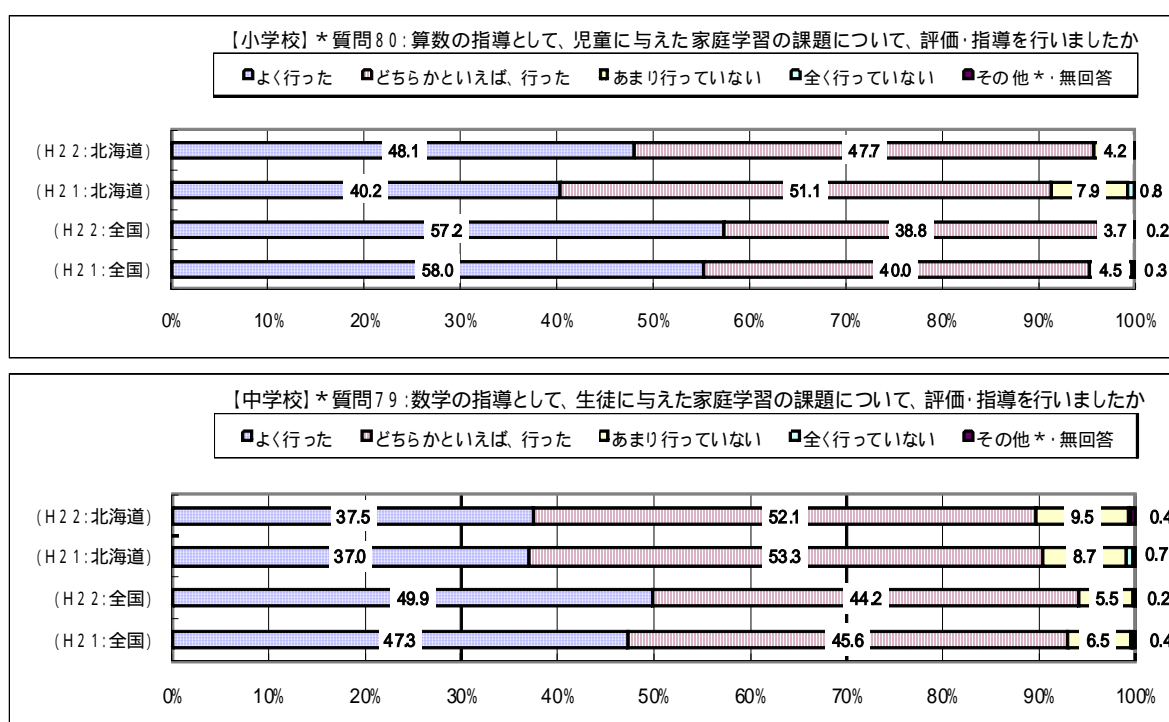
国語の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては5.5ポイント低い。



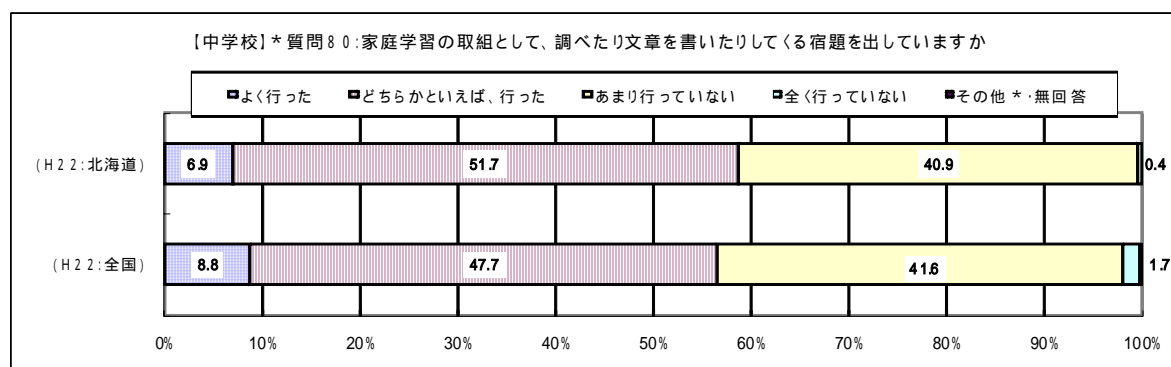
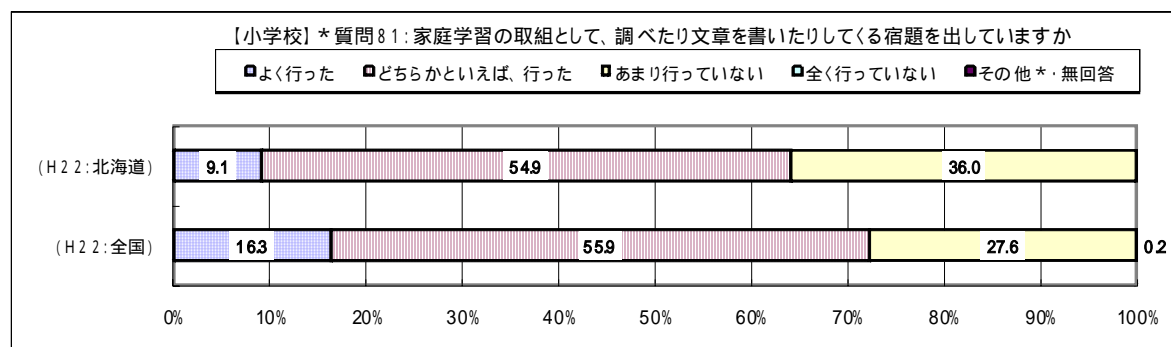
算数・数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えた学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.3ポイント低く、中学校調査においては3.2ポイント低い。



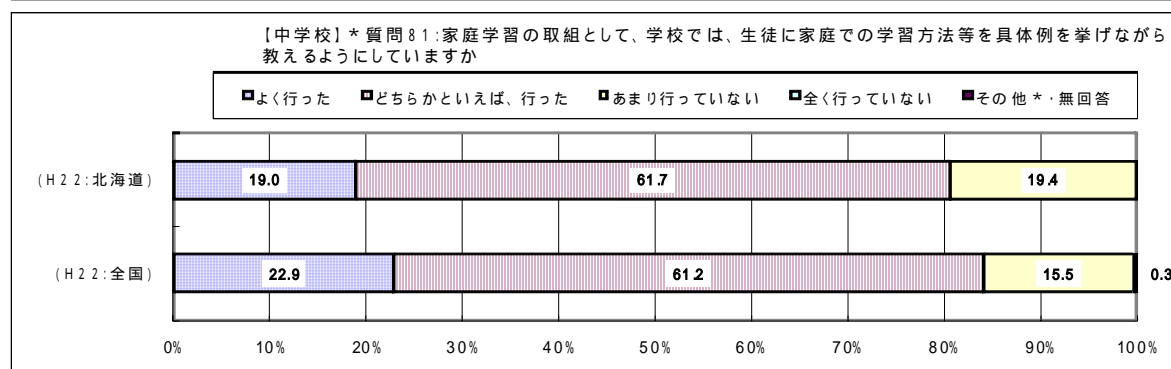
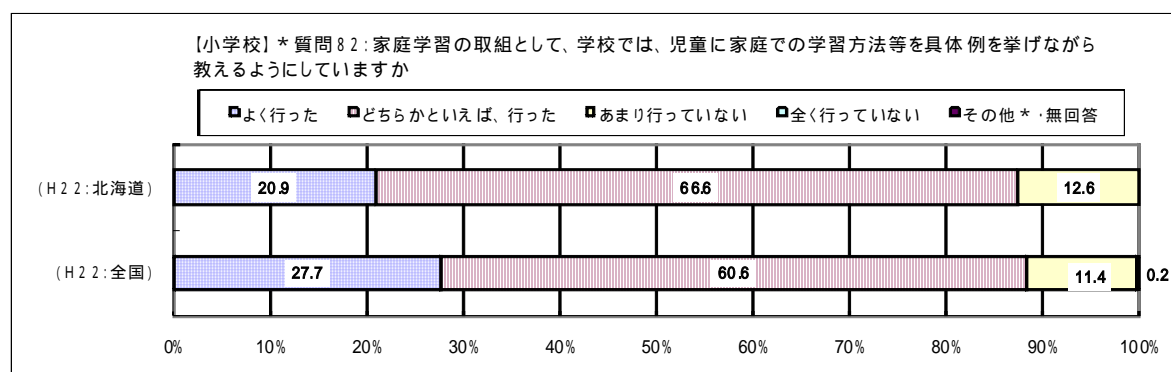
算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行った学校の割合は、小学校調査においては昨年度より若干高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては4.5ポイント低い。



家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出している学校の割合は、全国と比べて、小学校調査においては8.2ポイント低く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。

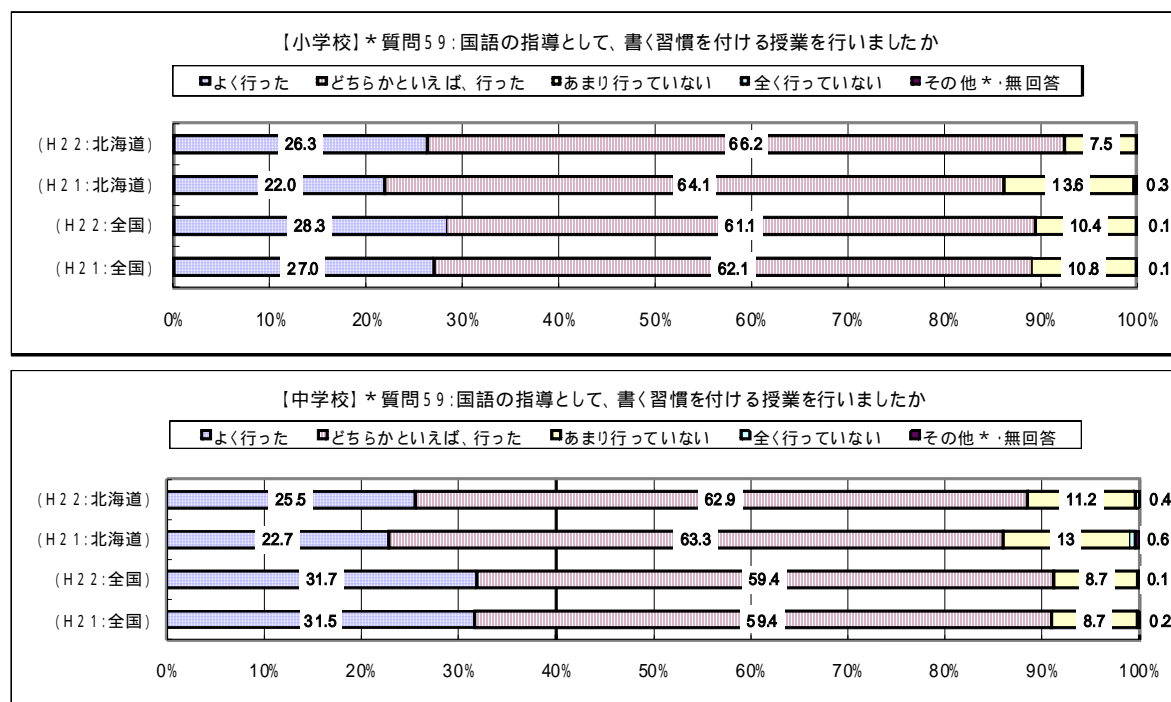


家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしている学校の割合は、全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては3.4ポイント低い。

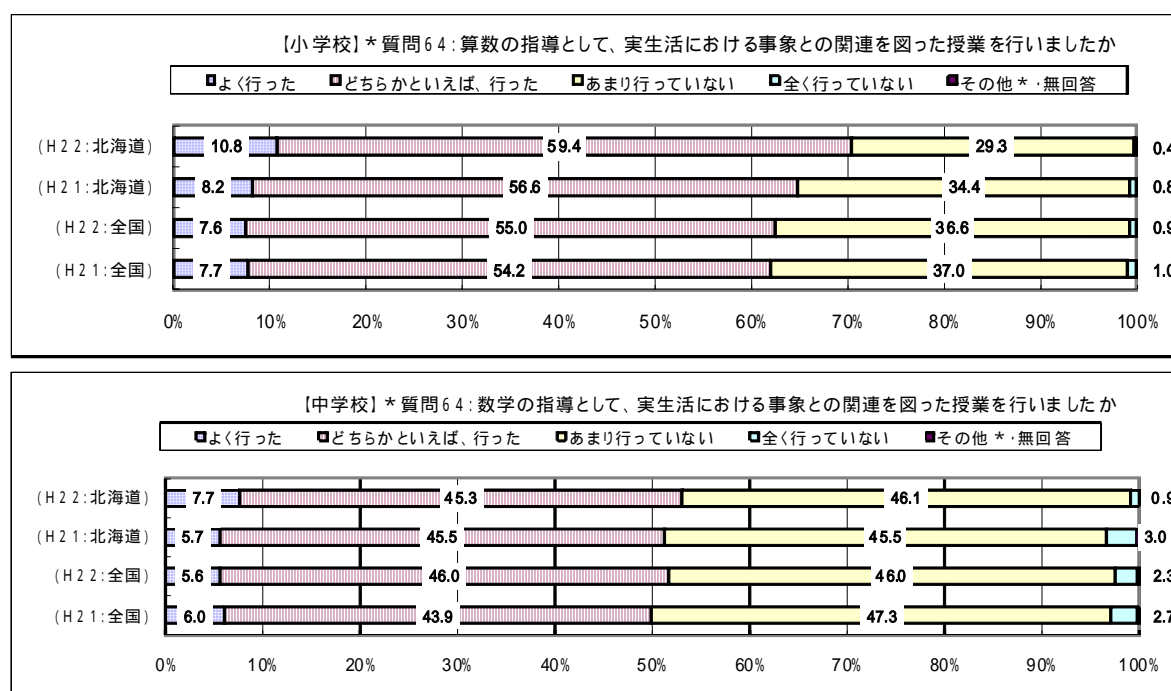


< 指導方法 >

国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行っている学校の割合は、小学校調査においては昨年度より高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.1ポイント高く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。

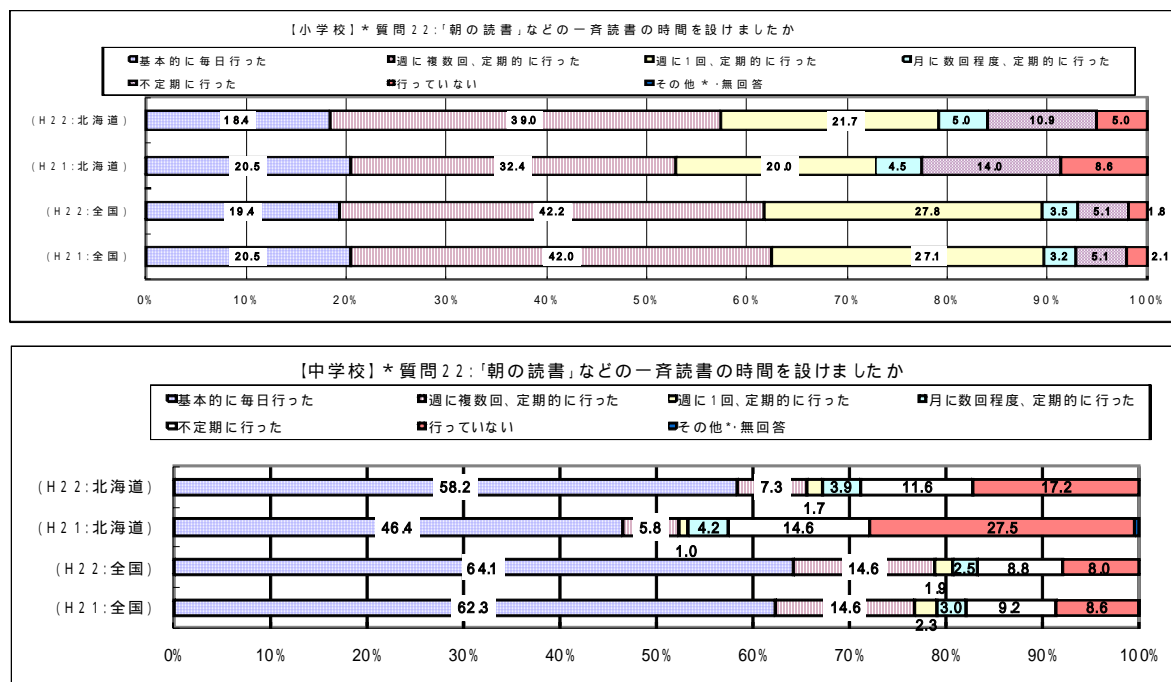


算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行った学校の割合は、小学校調査においては昨年度より高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては7.6ポイント高く、中学校調査においては同様の傾向が見られる。



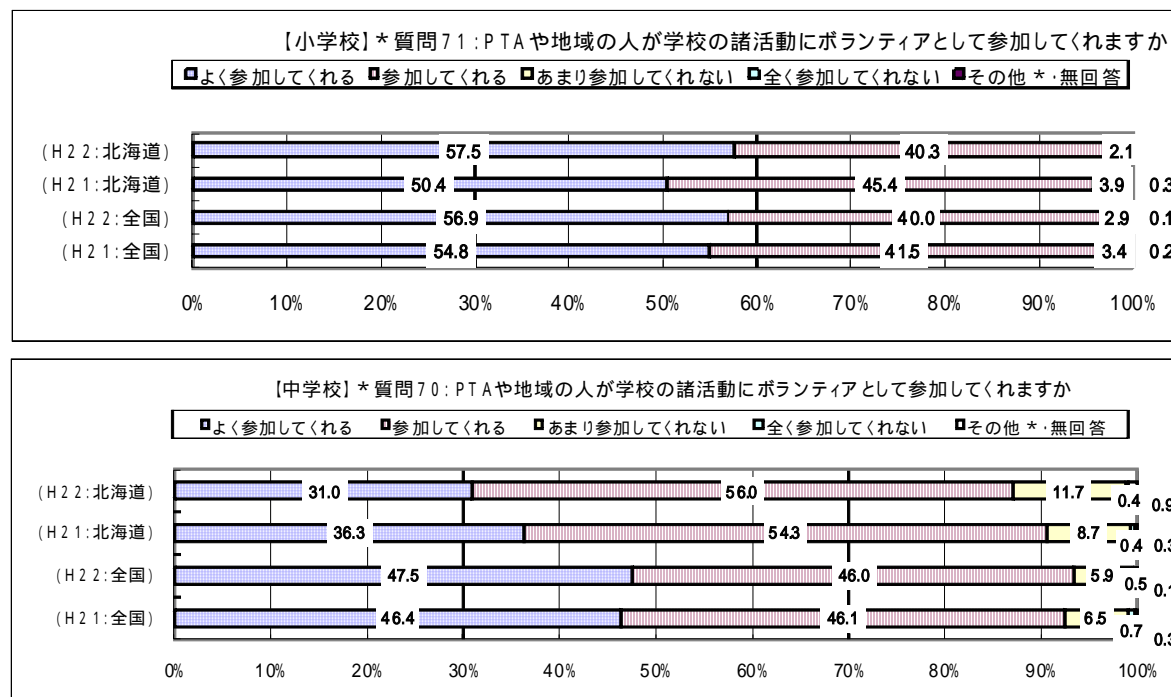
< 学力向上に向けた取組等 >

「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けている学校の割合は、昨年度より小学校調査においては若干高く、中学校調査においては高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては3.0ポイント低く、中学校調査においては9.2ポイント低い。



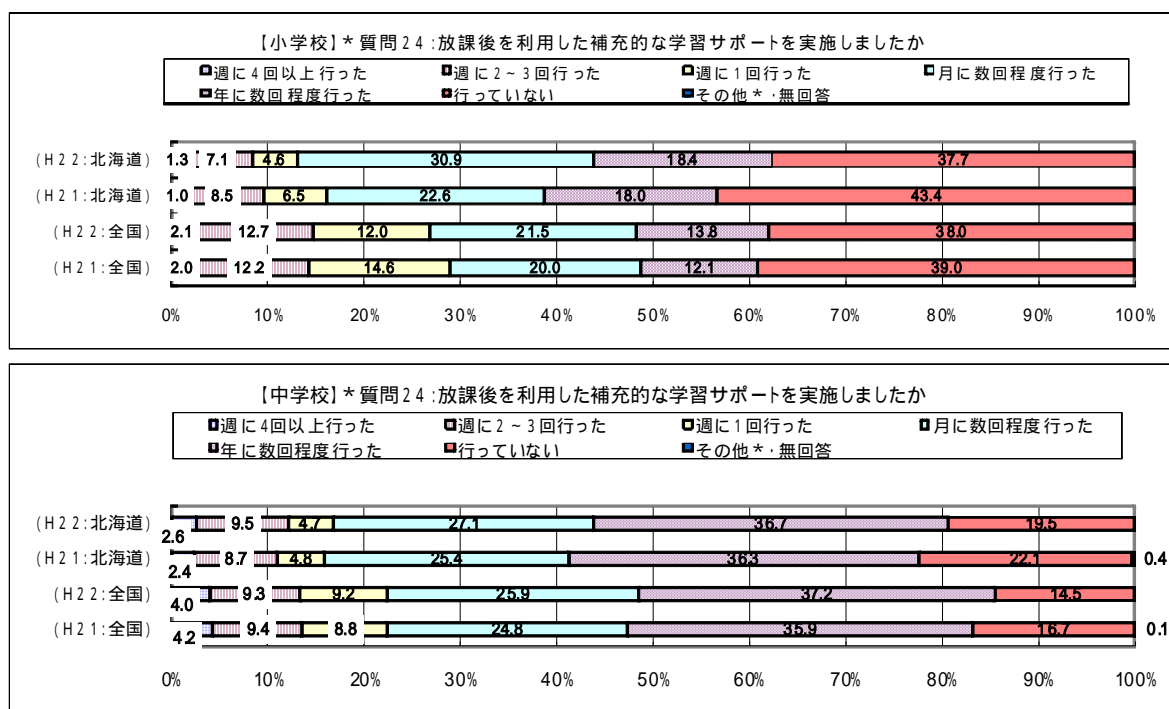
< 地域の人材の活用 >

PTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加してくれる学校の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より若干低い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては6.5ポイント低い。

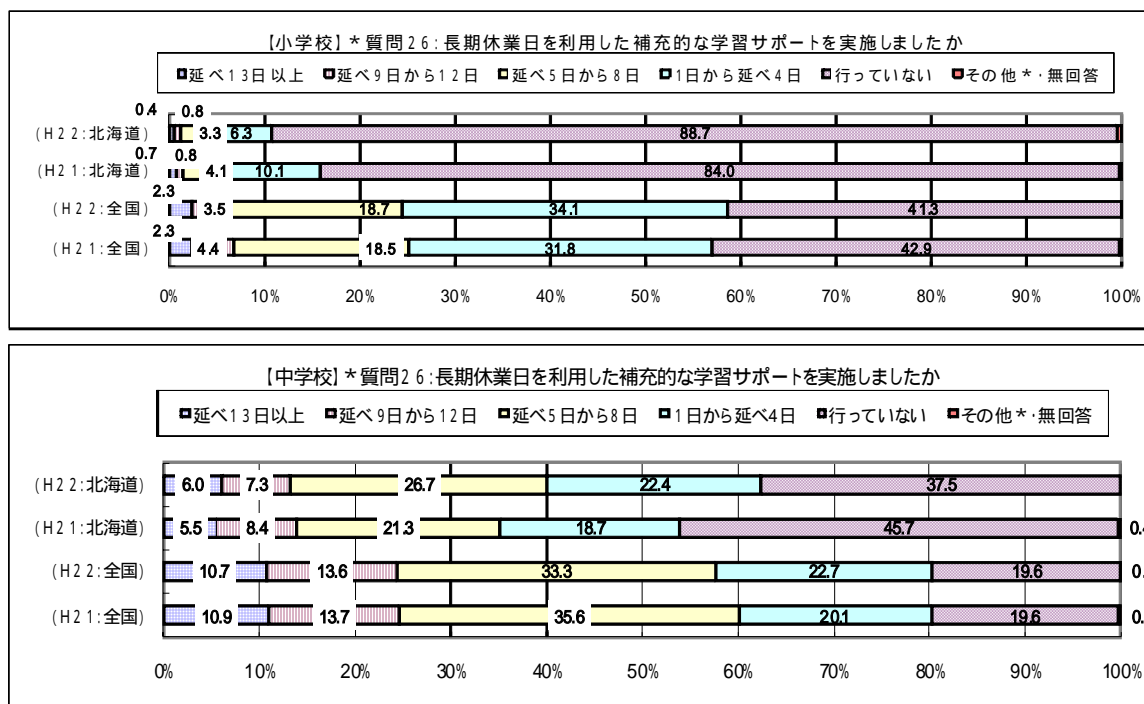


< 学習時間等 >

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、昨年度より小学校調査においては高く、中学校調査においては若干高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては5.0ポイント低い。

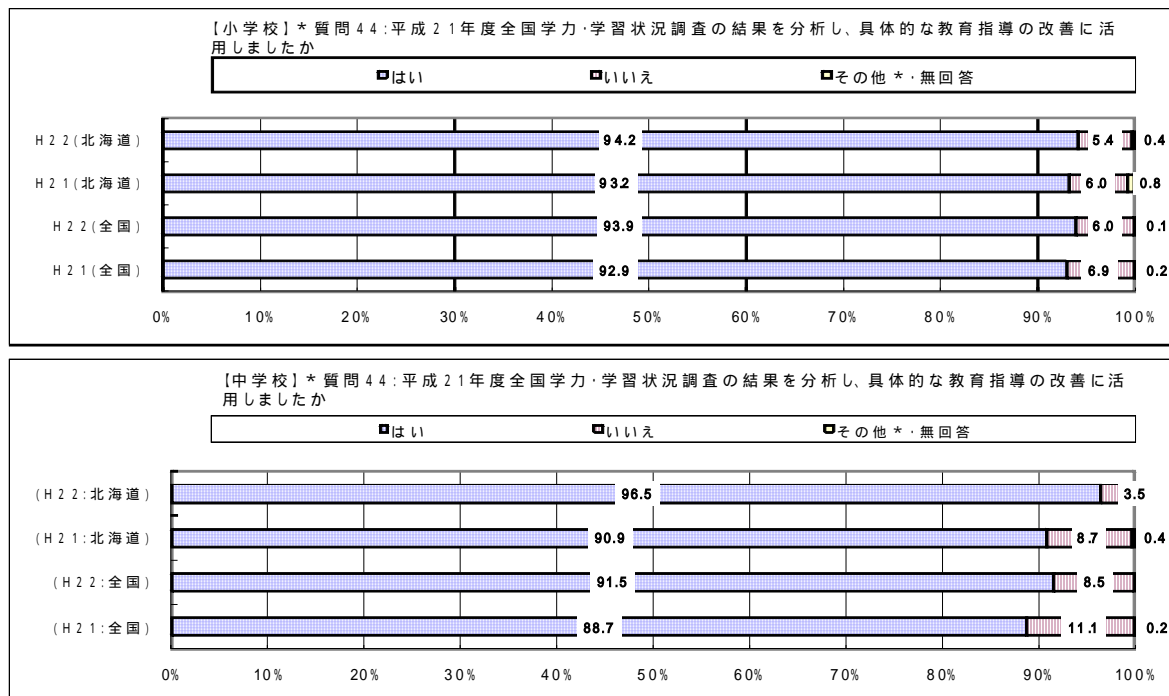


長期休業日を利用した補足的な学習サポートを実施している学校の割合は、昨年度より小学校調査においては若干低く、中学校調査においては高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては47.8ポイント低く、中学校調査においては17.9ポイント低い。

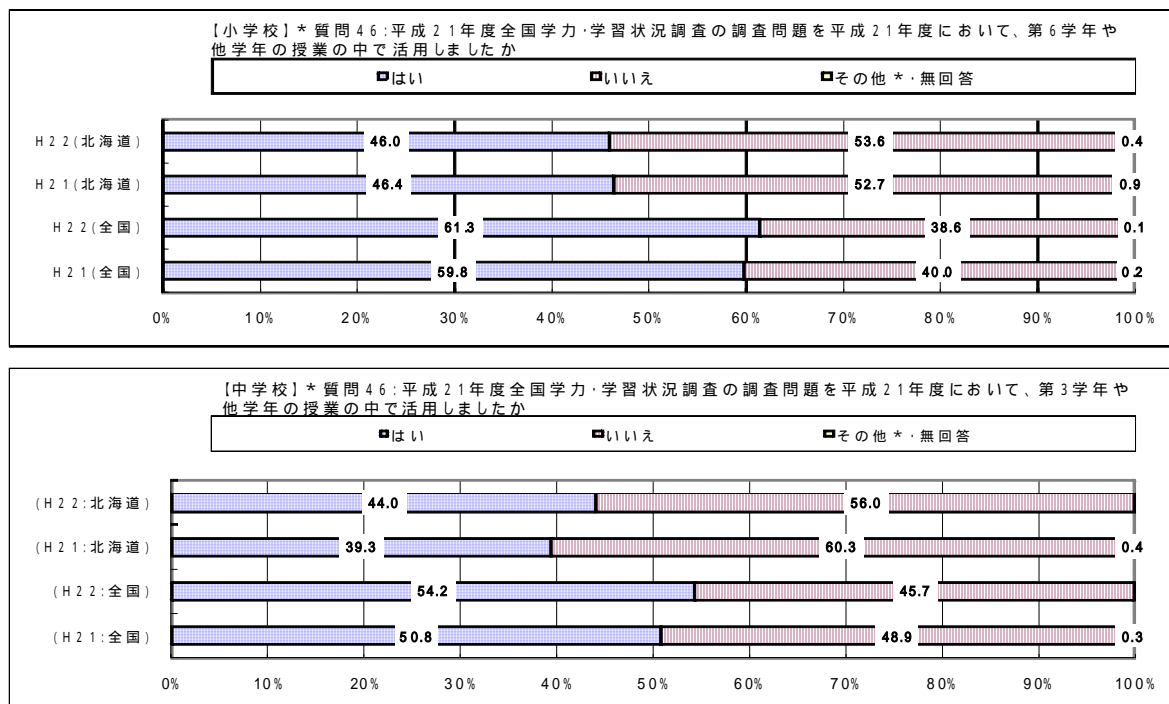


< 全国学力・学習状況調査の活用 >

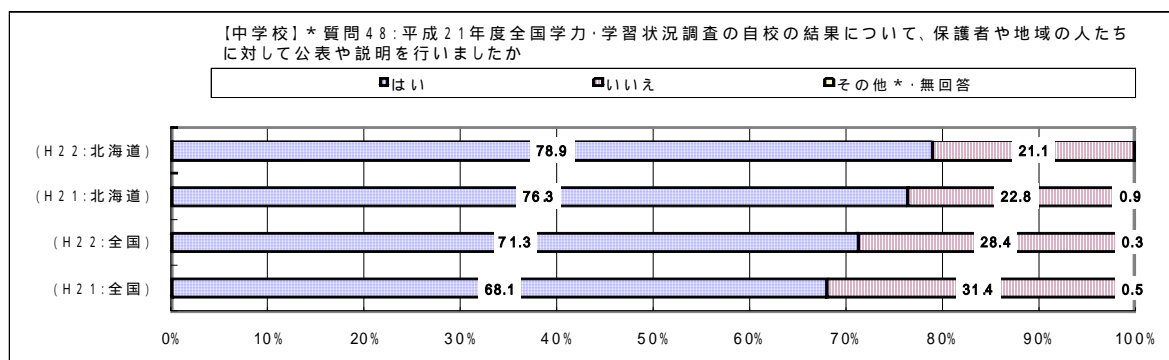
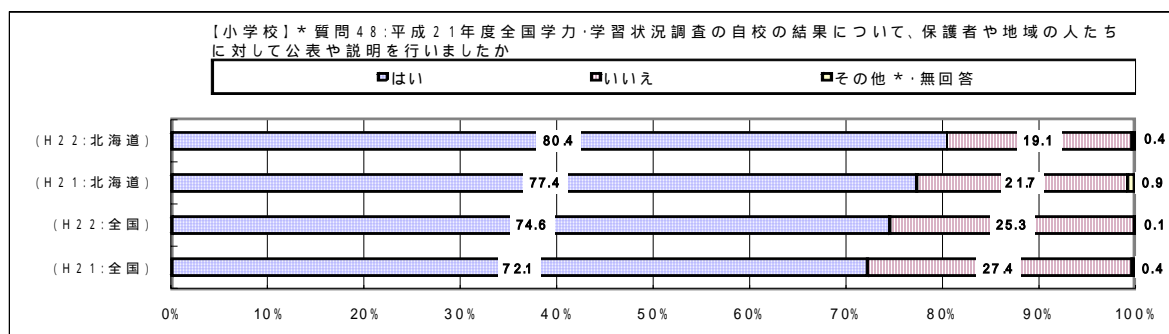
全国学力・学習状況調査の結果を分析し、具体的な教育指導の改善に活用した学校は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては同様の傾向であり、中学校調査においては5.0ポイント高い。



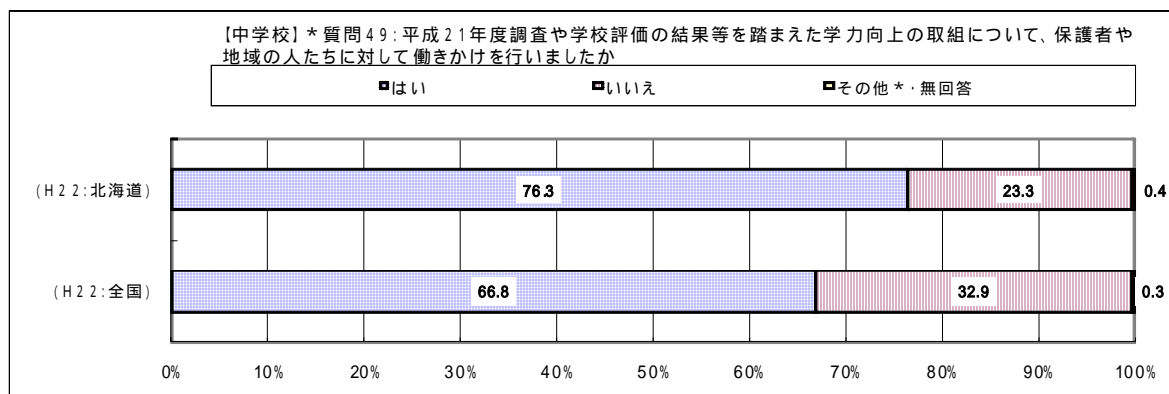
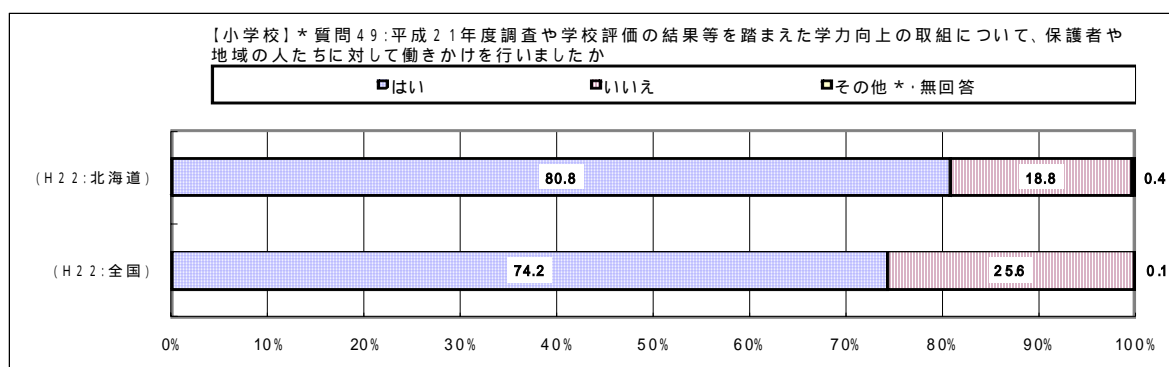
全国学力・学習状況調査の調査問題を、授業の中で活用した学校の割合は、小学校調査においては昨年度と同様、中学校調査においては昨年度より若干高い傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては15.3ポイント低く、中学校調査においては10.2ポイント低い。



平成21年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った学校の割合は、小学校調査においては昨年度より若干高く、中学校調査においては昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査においては5.8ポイント高く、中学校調査においては7.6ポイント高い。



全国学力・学習状況調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、全国と比べて、小学校調査においては6.6ポイント高く、中学校調査においては9.5ポイント高い。



< 教職員の取組 >

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっている学校の割合は、小学校調査及び中学校調査において昨年度と同様の傾向がうかがえる。全国と比べて、小学校調査及び中学校調査において同様の傾向が見られる。

